

((普通學講義叢書))

英文法 講義

西川巖先生講述

大日本普通學講習會

藏版

083256-000-7

特27-738

英文法講義

大日本普通學講習會

M37

DAH-0746

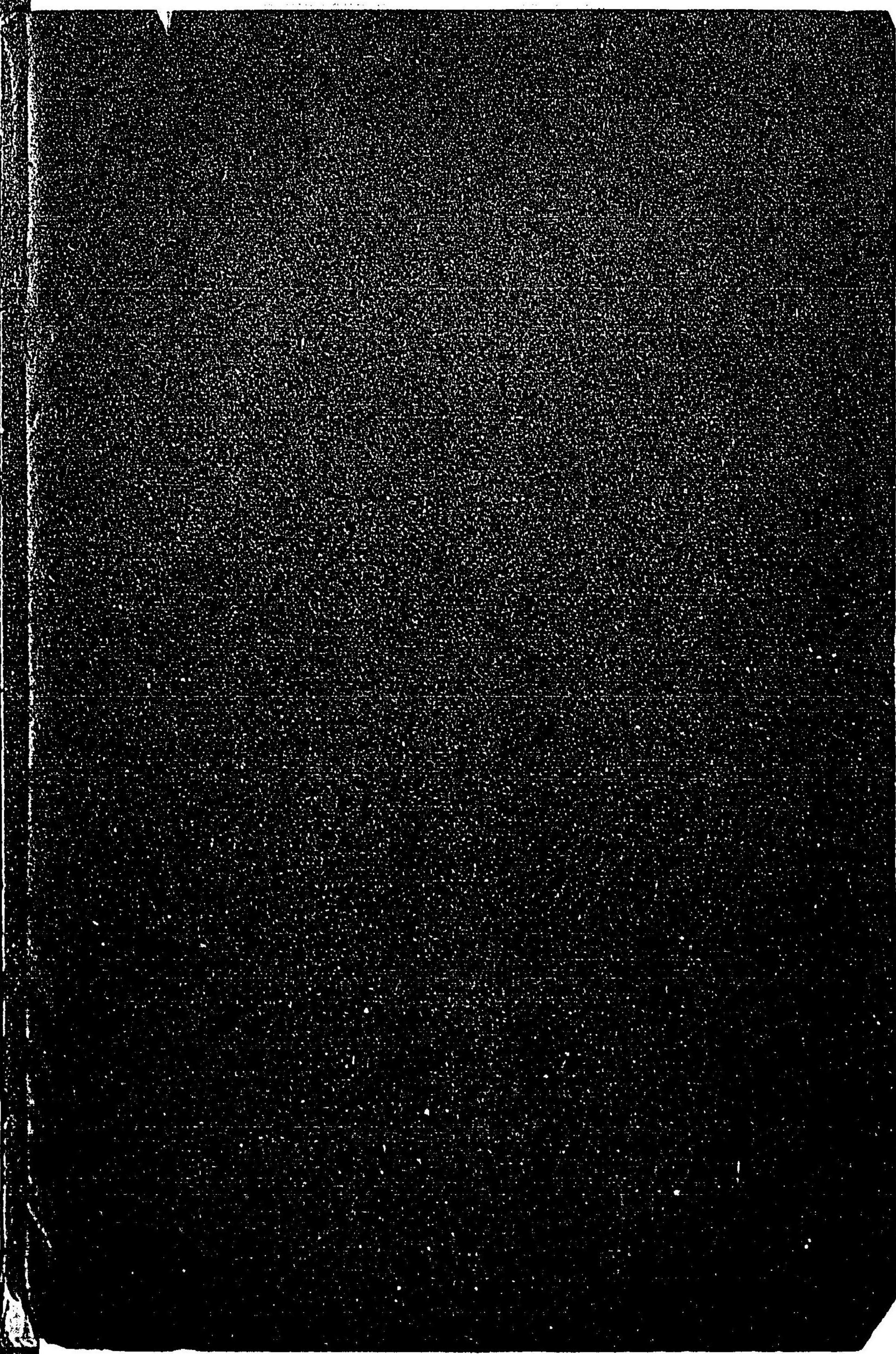
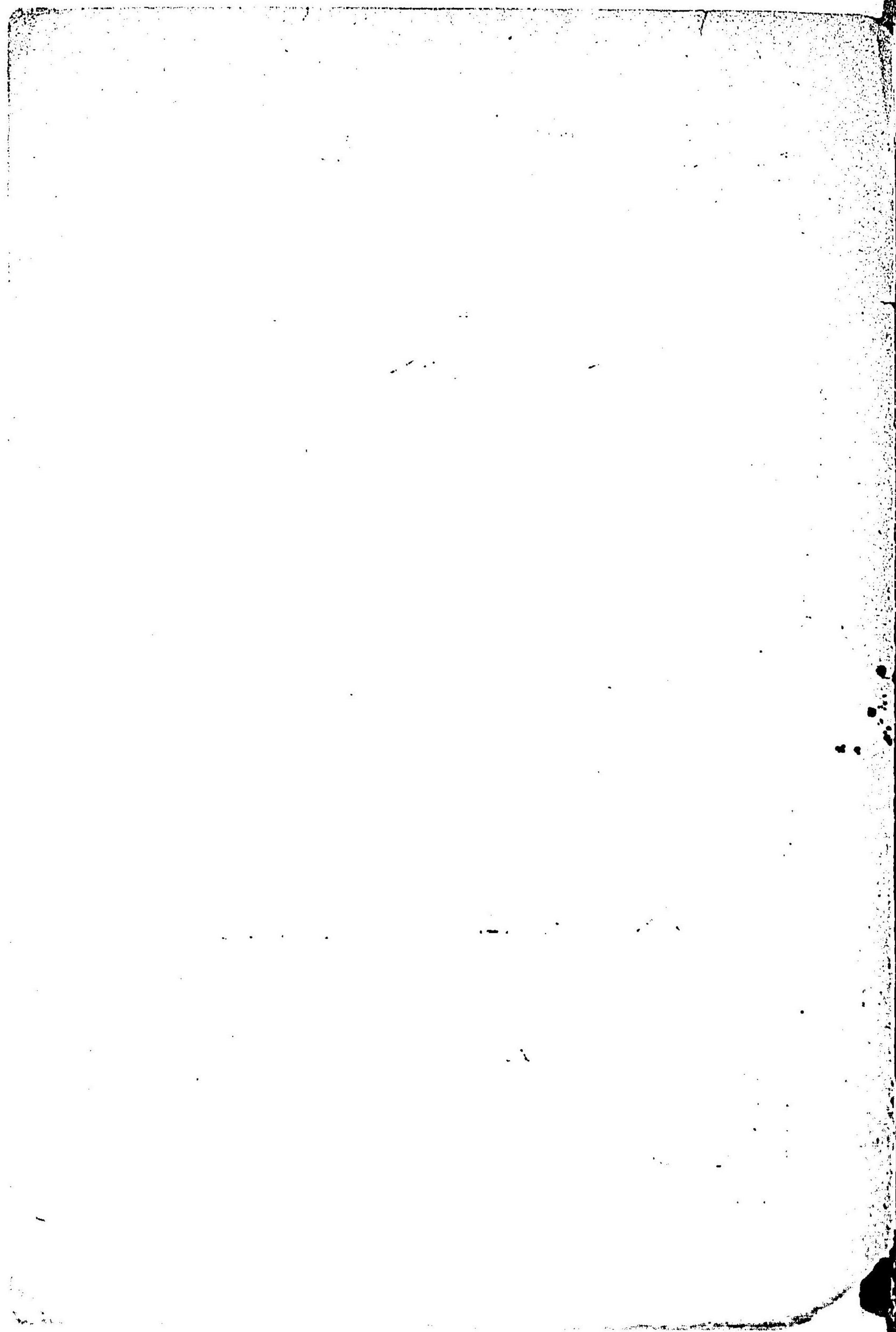


27

38

220

527



特27

738

西川巖先生講述



法講義

全

大日本普通學講習會藏版

明治
'87 5 26
内交

英文法目次

第一章 一般の定義	1
第二章 言辭論	
1. 八品詞	2
2. 文法上の形式	2
第三章 名詞	
1. 名詞の種類	3
2. 名詞の性	9
3. 名詞の格	12
第四章 形容詞	
1. 定義	19
2. 形容詞の種類	20
3. 特稱形容詞	20
4. 説明形容詞	20
5. 分量形容詞	20
6. 數形容詞	21
7. 指示形容詞	22
8. 分配形容詞	25
9. 形容詞の比較	26
10. 不規則なる比較法	27
11. 雜句語より來れる比較級	28
第五章 代名詞	
1. 代名詞の定義	28
2. 人を指す名詞の代用	28
3. Demonstrative Pronoun.	31
4. Relative Pronoun.	32

5. Interrogative Pronoun.....	34
第六章 動詞	
1. 定義.....	35
2. 動詞の種類.....	35
3. 他働詞.....	35
4. 自働詞.....	36
5. 助働詞.....	36
6. 他働詞.....	36
7. Object の位置.....	37
8. 二重の Object.....	38
9. Factitive verbs.....	39
10. Object として用ゐらるべき Relative を省略する事.....	40
11. 自働詞的に用ゐられたる他働詞.....	41
12. 自働詞.....	41
13. Cognate object.....	43
14. Reflexive object.....	43
15. Intransitive verbs in a causal sense.....	44
16. Prepositional Verbs.....	44
能働及被働の働	
1. 他働詞に二つの働き方.....	45
2. 例に就ての説明.....	45
3. 變化.....	46
働詞の法	
1. 働詞の法の意義.....	46
2. Indicative mood.....	47
3. Potential mood.....	49
4. Subjunctive mood.....	50
5. Imperative mood.....	51
6. Infinitive mood.....	52

第七章 副詞

1. 副詞の定義.....	63
2. 副詞は全き確定文をも qualify す.....	64
3. 單純なる副詞.....	66
4. 疑問副詞.....	68
5. adverb. "How" は時に叫呼の意味に用ゐらる.....	68
6. 關係副詞.....	68
7. 關係副詞としての "the".....	69
8. 副詞の比較法.....	70
9. Adverbs の形.....	70
10. 副詞的句.....	72
11. Adverbs は時として一對として用ゐらる.....	73
12. 働詞と副詞とが習慣的は伴ふて用らる場全.....	73
13. 副詞の二用法.....	74

第八章 前置詞

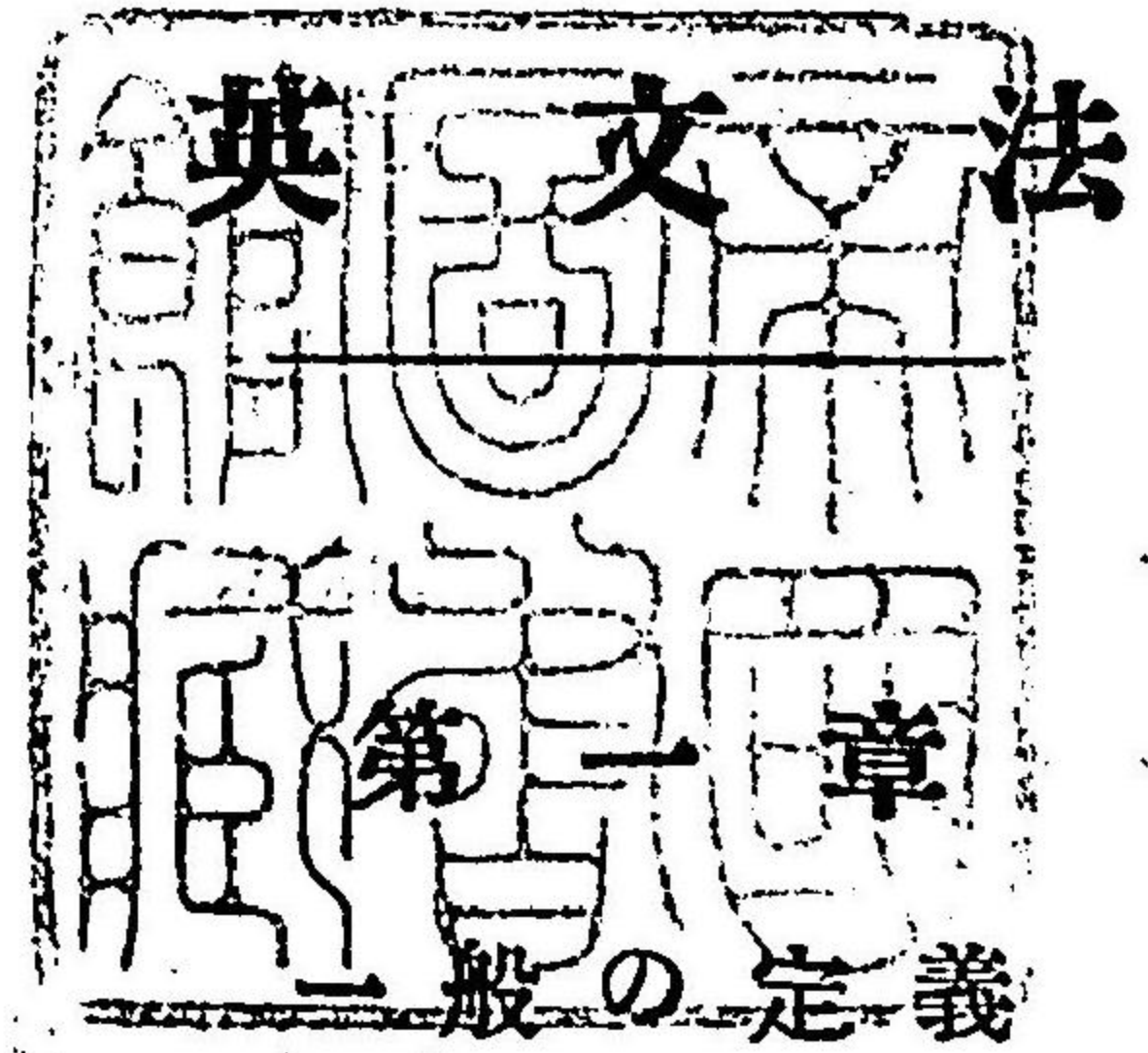
1. 定義.....	75
2. 目的としての副詞.....	75
3. 目的としての Phrases.....	76
4. Object としての Noun-clause.....	77
5. Object の脱畧.....	77
6. 前置詞の形.....	77

第九章 接續詞

1. 定義.....	79
2. Co=ordinative:.....	80
3. Subordinate Conjunctions.....	81

第十章 感投詞

1. 定義.....	82
働詞の補足.....	84



音を表はす符號を文字 (Letters) といふ。文字相結合して、
言辭 (Words) を作り、言辭相結合して文章 (Sentences) を作る。而して
或思想が、文字、もしくは言辭、もしくは文章に因て表はされたるど
きは之を國語 (Languages) といふ。

國語にはそれぞれ一定の原則あり。此原則に就て論ずる學科
を文法 (Grammar) といふ。而して各の國語はそれぞれ各特種の原
則を有す。故に英國語にも亦特種の原則あり。此原則を論ずる學科
を英文法 (English Grammar) といふ。

凡る文法は四つの部分に分れる。即ち (1). 文字論 (Ortho-
graphy). (2). 言辭論 (Etymology). (3). 文章論 (Syntax). (4). 句法
論 (Prosody). 是なり。されども文字論と句法論との二つは、普通之
を論ずること至て稀にして、或は全く之を文法家の職掌以外に排斥
するものさへあれば、こゝには、普通の例に従て言辭論を主として
論じ、餘暇あれば文章論を併せ論せんと欲す。

第二章

言 辭 論 (Etymology.)

言辭論とは、言辭の分類及其文法上の形式 (Grammatical Form) に就て論ずる學問なり。

1. 八品詞 (Parts of Speech). 言辭は文章に於ける用法に従ひ下の八種に分類することを得。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1. 名 詞 (Noun) | 5. 副 詞 (Adverb) |
| 2. 代名詞 (Pronoun) | 6. 前置詞 (Preposition) |
| 3. 形容詞 (Adjective) | 7. 接續詞 (Conjunction) |
| 4. 働 詞 (Verb) | 8. 感投詞 (Interjection) |

2. 文法上の形式 八品詞に屬する或性質を指示する形式を稱して文法上の形式といふ。即ち下の如し。

1. 數 (Number).....名詞、代名詞、働詞の性質
2. 性 (Gender) " " " " "
3. 格 (Case) " " " " "
4. 人稱 (Person) " " " " "
5. 働 (Voice) " " " " "
6. 法 (Mood) " " " " "
7. 時 (Tense) " " " " "

8. 比較 (Comparison).....形容詞及副詞

第三章

名 詞 (Nouns).

定義 名詞とは人或は物を指示する言辭なり。

1. 名詞の種類 (The kinds of Nouns).

名詞には下の五種類あり 即ち

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| (A) 實体名詞 (Concrete) | a. 特稱名詞 (Proper Noun) |
| | b. 普通名詞 (Common Noun) |
| | c. 集合名詞 (Collective Noun) |
| | d. 物質名詞 (Material Noun) |
| (B) 抽象名詞 (Abstract) | |

是なり。

實体名詞とは、其名の示す如く、有体のもを指す名詞なり。

抽象名詞とは、其名の示す如く、虚体のもを指す名詞なり。例へば、馬 (Horse)、家 (House) の如きは實体名詞にして、高さ (Height)、長さ (Length) の如き抽象名詞なり。

特稱名詞 (Proper Nouns).

特稱名詞とは、或特定の人又は物を指す名詞也。例へば、Hideyoshi といへば或特定せる人を指す一つの特稱名詞なり、Kyoto (地名) 大徳殿 (建物の名)、富士山 (山の名) の如きは皆特稱名詞也。

(4) 英 文 法

註。特稱名詞は常に頭文字を以て書き初む。

註。人名 地名 建物の名 月日の名 學科名病名等は皆特稱名詞に屬す。

普通名詞 (Common Nouns).

普通名詞とは、同種の如何なる人にも、物にも共通なるものを表はす名詞なり。即ち或特定の人又は物を指すに非ずして、或部類 (Class) の如何なるものにも適用し得る名詞なり。

例へば、(Cat) といへば、或特定の猫を指すに非ずして、猫なる部類に屬する如何なる猫にても指すものなり。其也小兒 (Boy) といへば、この子供あの子供と特定の人を指すに非ず、小兒なる部類に屬する如何なる小兒をも指示するもの也。机 (Table), 英雄 (Hero) の如きも皆爾り。

特稱名詞にして往々普通名詞に用ゐらるゝ場合あり。例へば

彼は日本の ビスマルク なり。 (He is the Bismark of Japan).

即ち特稱名詞が人或は物の一種類を指して説明的に用ゐらるゝ時にして、此の例に於ける意味は、彼は日本の大政治家なり。といふに全じ。

集合名詞 (Collective Nouns).

集合名詞とは、個々の人又は物の集合せるものを、一つのものと見做して表はす名詞なり。

英 文 法 (5)

集合名詞は文法家によりては之を普通名詞の下に論ずるもの多し。其性質普通名詞と異なることなく、普通名詞の一部と稱す可ければ、こゝには便利の爲めに普通名詞と別ちて、之を立てたり。

集合名詞の例は、例へば 艦隊 (Fleet), 陸軍 (Army), 聯隊 (Regiment) 等の如し。艦隊は軍艦の集合隊にして、陸軍、聯隊は兵士の集合体なり。

註。集合名詞と相似たるものに、群衆名詞 (Nouns of Multitude)

なるものあり。されども兩者の間の區別は明かに立てられ決して混同すべきものに非ず。例へば 元老院は五十人より成る (The Senate consists of fifty persons) なる文章に於て Senate なる言辭は一個の分つべからざる一團を表はすが故に、これは集合名詞なり。然るに群衆名詞に於ては、之と異なるものあり。例へば、元老院は其意見に於て分れたり (The Senate were divided in their opinion) なる文章に於て、Senate なる言辭は或一團の各個体を表はすものにして、これは群衆名詞也。凡る兩者の差異は之に伴ふ動詞の單復に因て明かなり。動詞の事は後に至りて述ぶべし。

物質名詞 (Material Nouns).

物質名詞とは物質 (Material) を表はす名詞也。砂糖 (Sugar), 水 (Water) の如き其例なり。

此名詞の特徴は、直に實物其物を表はすに在り。故に同じ言辭にて

も。其意義に従ひて物質名詞たり又普通名詞たるを得べし。例へば
魚は水中に棲む (Fish lives in water).

魚はよき食料なり (Fish is good for food).

の二つの文章に於て。前者は一個体の魚を指すが故に普通名詞なれども。后者は。魚の肉即ち魚が成れる物質を指すが故に物質名詞なり
其他推して考ふべし。

抽象名詞 (Abstract Nouns).

抽象名詞とは虚体名詞ともいひ。形体なきものゝ名なり。即ち
性質。状態 及び動作等を表はすものなり。

性質 (Quality) を表はすものゝ例： 白さ (Whiteness) 深さ (Depth). 我慾 (Selfishness). 等の如し。

状態 (State). を表はすものゝ例： 奴隸の境過 (Slavery). 幼年 (Childhood). 快樂 (Pleasure). 等の如し。

動作 (Action). を表はすものゝ例： 涕泣 (Weeping). 打撃 (Stroke). Jump (飛躍). 等の如し。

註。凡そ實体名詞は五感に觸るゝものを指せども。抽象名詞は 其實体を離れ。實体其ものゝ性質。状態又は動作を表はすもの也。即ち或一の實体より其性質状態又は動作を抽出して之を吾人の思想の上に上ほすものなるが故に抽象 (Abstract = to draw from) 名詞といふ也。

註。動詞の Gerund—'ing' にて終るもの。及 Infinitive—

前に 'To' を有するものは。抽象名詞として用ゐらる。

Reading is maketh a full man. (讀書は人を該博にす).

To spend too much sime in studies is Sloth. (勉強に時を使ひ過こすは陋なり).

の如し。されどもこれは動詞の段に更にいふべし。

註。抽象名詞は。人を代表して用ゐらるゝときは。特稱名詞として用ゐらる。此場合には其抽象名詞は頭文字にて初まる。

The six hundred rode into the mouth of Hell. (六百人は地獄口へと乗込めり).

註。特稱名詞。物質名詞又は抽象名詞は。或方法によりて普通名詞として用ゐらる：即ち下の如し。

特稱名詞

普通名詞

Milton was a great poet. (ミルトンは大詩人なりき)	}	We have a Milton in our country. (我國には一人のミルトンあり) There are many Miltons in our country. (我國には多くのミルトンあり)
---	---	--

即ち

(ミルトンの如き大詩人ありとの義)

物質名詞

普通名詞

Apple is my favorite fruit. (林檎は私の好菓物なり) } Give me the apple in that basket. (その籠の中の林檎を我に與へよ)

(林檎は私の好菓物なり) } Give him one of your apples. (汝の林檎の一を彼に與へよ)

抽象名詞

普通名詞

Justice is a noble quality. (正義は貴き性質なり) } He is a justice of peace. (彼は治安判事なり)

(正義は貴き性質なり) } There are four justices present. (四人の判事が出席して居る)

諸君は上例によりて、特稱 物質、抽象の諸名詞が如何なる方法によりて、普通名詞に用ゐらるゝかを知りし玉ひしならん。即ち (第一) 其前に冠詞 (Articles) —— 'a' 又は 'The' を用ること、(第二) 之を複数となすこと、の二つの仕方なり。

下に掲げたる文章より、各種の名詞を撰ぶべし。

During the Revolutionary War the soldiers were trying to raise a heavy timber which they could scarcely lift from the ground. A young corporal stood by, urging the men to lift hard, and shouting, "Now, boys, right up," when a superior officer rode up, dismounted, and lifted with the men. When the timber was in place the officer asked the corporal why he did not help. "I am a

corporal," he replied. "I am George Washington," responded the officer. "You will meet me at your commander's headquarters."

(革命戦争の折に、兵士共が、持ち上ることが出来ぬ様な重い材木を折角と持ち上げて居つた。ところが一人の年若の伍長が側に立つて居て瀕りと部下が一生懸命にやる様にと督勵して、サア、皆んな、上げる上げると呼んで居つた。所ろへ一人の上級士官が馬でやつて來たが、直ぐ馬から下りて、兵士共と一所になって持ち上げた。さて其材木が置くべきところに置かれたときに、件の士官は、伍長に向て何故汝は協力せなかつたかと尋ねたところ、彼は、おれは伍長だ、と答へた、士官は答へた、おれはジョージ・ワシントンだ、汝が汝の長官の本營に來るならおれに出會はすならん、と。

2. 名詞の性 (Gender)

自然界に於ける男女雌雄の性を文法上に於ては性 Gender といふ。此の方面より考ふるときは名詞は下の四つの性の中何れに屬するものたらざるべからず。

- 男性 (Masculine Nouns) — 例: Man (男) Boy (男兒) Soldier (兵卒)
- 女性 (Feminine Nouns) — 例: Woman (女) Girl (女兒) Cow (牝牛)
- 通性 (Common Nouns) — 例: Parent (両親) Friend (友人)

中性 (Neuter Nouns) 一例: Stone (石) Book (書籍) Fire (火).
 男性と女性とは字義の通り雌雄男女を表はすものなり。通性とは、
 男女雌雄何れにも通じ得べき名詞をいふものなり。友人といへば
 男の友人にても女の友人にても、何れに就ても言ひ得るが如し。
 次に中性とは男女何れにもつかざるものをいふ。石といへば、雌
 にもあらず雄にもあらず。何れの性をも有せざるもの也。凡て中
 性の名詞は生命なきものに附せらるゝと知るべし。されどこゝに
 一つ注意すべき事は、慣習上一二の取除の場合あることなり。船
 (Ship) といふ名詞は一見中性なれども、通常これは女性名詞とし
 て取扱はる。船人が親みていひしより始まりしといへり。月 (Moon)
 鐵道客車 (Railway train) の如きも亦女性の名詞として取扱はる。か
 らる例は英語にては極めて稀なれども獨佛其他の國語にては極め
 て多きことゝ知るべし。
 諸子は上述の記載によりて大凡名詞の性の如何なるものなるかを
 知了せられしなるべし。されば今名詞の各種類を通覧して下の如
 き表を作り得べし。

性	名 詞
男性又は女性	—— 特稱名詞及普通名詞
通	性—— 普通名詞
中	性—— { 特稱名詞 普通 " " 集合 " " 物質 " " 抽象 " "

上の表は如何なる種類の名詞が、如何なる性を採るやを示すもの
 なり。

男性と女性 男性名詞と女性名詞とは下に述ぶる記載により
 て之を識別するを得べし。

a). 或言辭が男性名詞に加はりて女性となりし場合。

例へば Man-servant (下男) Maid-servant (下女) の如きに於て。
 元來 Servant (召使) なる字は通性の名詞なり。男女何れにも通
 じ得べければなり。是に Man (男) を加へて Man-servant とす
 れば下男なり。Maid (女) を加へて Maid-servant とすれば下女
 なり。其他かゝる例を擧ぐれば He-goat (牡山羊) She-goat (牝
 山羊) Cock-sparrow (雄雀) Hen-sparrow (雌雀) の如き是也。
 而して此等の附加解は必ずしも言解の前に附せらるゝに限ら
 ず。後尾にも亦附せらる。例ば servant-man, servant-maid,
 grand-father, grand-mother. の如き皆是也。

b). 男性の字形を變ずることなく之に ess を附して女性と
 なる場合。

例へば Poet (詩人) Poetess (女の詩人) Host (旅館の主人)
 Hostess (全女の主人) Shepherd (牧人) Shepherdess (女の牧人)
 等の如し。

c). 男性と女性との字形の全く異なる場合。

例へば Boy (男兒) Girl (女兒) Brother (兄弟) Sister (姉妹)
 Hart (牡鹿) Roe (牝鹿) Cock (牡鶏) Hen (牝鶏) 等の如し。

以上に就て一々例を擧ぐることはとても限られたる紙上に於ては能はざることなれば、吾等は名詞の性に就て尙一二の智識を得るに止めて進んで名詞の格に移るべし。

一二の注意

雌雄両性の文字の形異なるも、名ざゝれたる動物の雌雄如何に付て疑の起るときは、通性の名詞として用ゐらるゝ事を得る若干数の名詞あり。Duck, bee, goose, colt, dog. 等の如きはこれなり。

無生物にして人格を附せられたる (Personified) 名詞は男性又は女性を以て取扱はる。通常剛健偉大崇高等のものは皆男性とせられ、美麗優雅快樂劣輩等のものは女性を取る。

Sun (太陽) Dawn (曉旦) Summer (夏) War (戦争)

Majesty (陛下) ————— (以上男性)

Spring (春) Charity (慈惠) Virtue (徳) Hope (希望) —

(以上女性)

3. 名詞の格 (Case)

名詞が他の名詞に對する關係もしくは其關係を表示する形式上の變化を格といふ。

英語には三つの格あり即ち、主格 (Nominative case) 所有格 (Possessive case) 目的格 (Objective case) 是也。

名詞が働詞の主 (subject: 働詞が何事かを何物かに就て述ぶるときは、其述べらるゝものを主といふ) として用ゐらるゝ場合には、名

詞は主格に在りといふ。

Wind blows (風が吹く)

The sailors love the shore. (水夫は海岸を好む)

wind や sailors は皆主格にあるもの也。

名詞が呼びかけの用に用ゐられたるときは矢張り主格に在りといふ。

My brother, where are you going? (私の兄弟よ、汝は何處へ行くか)

次に名詞が働詞の目的 (object: 他働詞に働かれて之に従ひ來る名詞又は其代用詞が働詞の目的となり得るものなり。) 及び前置詞の目的 (前置詞に支配さるゝとき、其名詞前置詞の目的となる) として用ゐられたる場合には其名詞は目的格に在りといふ。

My teacher praises my brother. (私の先生は私の兄弟を褒めます)

My brother is praised by my teacher. (私の兄弟は私の先生に褒めらる)

前者は働詞の目的となれる場合、後者は前置詞の目的となれる場合なり。

所有者を表はす名詞を、所有格に在りといふ。而して所有格の特質は其名詞の後尾に apostrophe 即 ('s) を附するにあり。

The orator's speech. (演説者の演説)

The boy's hand. (小供の手)

's は所有格の特質なるが、此の 's を加へずして單に 's のみを附する二三の場合なり。即ち

a) s にて終る複數名詞の後。

Cats' fur (猫の皮) Beasts' flesh (野獸の肉) Girls' hair (女

兒の髮の毛) 等の如きこれなり。

b). 單數名詞の終の綴が s にて始まり s にて終るとき。

Moses' law (モセスの作りし法律) — されども吾人は Hastings's merit とはいはざるべからず。

c). 單數名詞の終りの綴が s もしくは ce にて終りて其次に

Sake なる字の來るとき

for happiness' sake (幸福の爲めに)

for justice' sake (正義の爲めに)

生命なきものは所有格の名詞とすること能はざるは注意すべきことなり。もし無生物に所有格を與へんとするとき 's の代りに其名詞の前に of (の) なる前置詞を置くべし例へば House's door とはいはずして The door of the house といふが如し。又は時としては形容詞狀に名詞を用ひて The spring flower (春の花) といふが如きことあり。されども此の用ひ方は英語に練れたるものに非れば容易に用ふべからず。必ずしも二つの名詞を列べたるが爲めに所有格を表すと思ふときは間違を來すべし。

人格を附せられたる名詞は人として扱はるゝが故に矢張り普通の所に從て 's を附す。而して時間定間又は重量を表はす名詞及び莊嚴な

るものを表はす名詞は取除として通常 's を加附して所有格を作る。

A day's journey (一日程の旅) a hair's breadth (毛髮の幅)

a ton's weight (一噸の重量) Nature's influence (自然の影響)

等々の如し。

二つ以上の名詞が合して一意義となり人を表はし居るときは之を所有格となすには最後の名詞に 's を附すべし the Duke of Westphalia's arrival (ウエストフリア) 侯の到着の如き其例なり。又場所家屋等を表はす名詞は場合によりて其所有格の後に除かるゝことあり

He went to James's

といへば、彼は James の宅へ行きたりの義なりと知るべし。

註。主、目的、單數、複數、などの諸子が未知の語が所々用ゐられたれば、或は一寸了解に苦み王ふことあらんも、それ等は後述によりて漸々分かる様にいたすべし。

吾人は之より、名詞の尙他の一形なる數に就て少しく論せん

4. 名詞の數 (Number)

或名詞が單に或一個の人又はものを表はすときは其名詞は單數名詞 (Singular) なりといふ。もし二個以上を表はすときは複數名詞 (Plural) といふ。

單數と複數 單數より複數を作る一般の規則は、單數名詞の語尾に s を附加するにあり

單 數 複 數

doctor (醫者) doctors (二人以上の醫者)

table (机) tables (二個以上の机)

の如し。

s を附することは一般の規則なれどもこれにはいろいろの例外あり。

a). もし名詞の語尾が s, x, sh, 又は ch にて終るときには之に es を附加して複數を作る pass—passes (路) Sex—sexes (男女の性) flash—flashes (ひらめき) Inch—Inches (尺度の名)。

b). 子音に先立たれたる y にて終る名詞は y を ies に變じて複數を作る。Cry—cries (叫) army—armies (陸軍) 等の如し。されども y が一母音に従ふときは通則によりて s のみを附するものとす toy—toys (玩具) Boy—Boys の如し。

c). 一子音に先だゝれたる o にて終る名詞は es を附して複數を作る Echo—Echoes (反響) torpedo—torpedoes (水雷火) の如し。されども此の規則には一二の取除あり Halo (暈) の如きは此の規則通りにすれば es を附すべきなれども之には單に s のみを附す。Halo 其他 Solo (單獨頌) piano (樂器の名) の如きは其例なり。

d). f, 又は fe にて終る名詞は末の f 又は fe を ve に變じて複數を作る。Knife—Knives (小刀) Life—Lives (生命) Wolf—Wolves (狼) Thief—Thieves (盗人) Leaf—Leaves (木の葉) 等の如きはなり。されども f にて終るものにて單に s にて複數を作るもの若干あり Gulf—Gulfs (江灣) Chief—Chiefs (首長) Dwarf—Dwarfs (矮小の人) の如し。

又 fe にて終る名詞にして s のみにて複數を作るもの三つあり five—fives (笛) strife—strifes (争) Safe—Safes (安固なる所)。

e) 母音の變化を以て複數を作る。Man—men (男) Woman—women (女) Foot—feet (足) Goose—geese (鵞鳥) Mouse—mice (はつねづみ) の如し。

f) rn 又は ne を附して複數を作るもの。Ox—Oxen (牡牛) Child—Children (小供) Cow—Kine (又は Cows 牝牛) Brother—Brothers (又は Brothers 兄弟) の四つ是也。

g) 二個以上の名詞が合して一の名詞をつくりたるものは其主なる字に s を加へて複數を作る。Mother-in-law—mothers-in-law (義母) Passer-by—passers-by (通行者) 等いと多かるべし。

h) 二個の名詞合して一名詞をなすとき。之を複數となすに方其何れの文字をも複數とするもの四個あり。Man-servant—men-servants (男僕) Woman-servant—women-servants (下婢) Lord-justice—Lords-justices (裁判長) Knight-templar—knights-templars (中世時代の武士の一派)。

i) 外國語より直に移り來れる複數。

以上述べたる各條は皆單數より複數に轉ずる規則正しき通則なり。されども如何なる場合にて。此等の規則が適合せらるべきものにあらず。複雑なる國語には諸種の例外あるは免れざる也。さればこの規則を適合する能はざる諸種の名詞に就て 聊か述べざるべからず。

外國語より來れる複數. Genus といふ名詞の如き其一例なり. この名詞の複數は Genuses といふことなくして Genera とする也. 是は Genus なる字は Latin 語の單數にして其複數は Genera なれば也. 又 Agendum (備忘録) の複數は Agenda なり. Agendum は矢張りラテン語の中性單數にして Agenda は其複數なれば也. かくの如きものいと多し. 今二三の例を掲げて下に示す.

Ovum—(卵)—Ova Bureau—(省)—Bureaux
Genius—(才)—Genii Seraph—(天使)—Seraphim.

かゝることはあまりの注意を要せずともよかるべし. 是かくの如き場合あることゝ知らば十分也.

形は單數なれども複數の意義に用ゐらるゝ名詞.

人民 People なる字は單數の形なり. されども其文章の中に使用せらるゝに方りては複數の義に用ゐらる These people have returned home. の場合の如し. Cattle, Swine の如きも其例也.

決して複數に用ゐられざる名詞及或特殊の義に於て複數に用ゐらるゝ名詞.

Poetry (詩)—folk (人民)—Alphabet (假名)—issue (小供)
Offspring (子)—Furniture (家具)—Scenery (景) 等.

單數にも複數にも其形全とどき名詞.

Deer (鹿) Dozen (十二)
Sheep (羊) Score (二十)
Heathen (異教徒) Pico (貨幣の名).

複數の形が二つある名詞.

Brother—{ Brothers (一複の兄弟) Cloth—{ Cloth (織物)
 { Bretheren (同胞兄弟) { Clothes (衣服)

Staff—{ Staves (棒)
 { Staffs (幕僚)

等の如き皆是也.

單複によりて意味を異にする名詞.

{ Vesper (夕)	{ Sand (砂)	{ Beef (牛肉)
{ Vespers (夕の祈)	{ Sands (砂地)	{ Reeves (牛)
{ force (力)	{ Physic (藥劑)	{ Air (空氣)
{ forces (軍勢)	{ Physics (物理學)	{ Airs (風貌)

單數に於ては全く用られざる名詞.

Arms (武器) Scissors (剪刀) Pincers (釘拔) Drawers (下袴衣) Pantaloon (女袴) Stazzers (眩倒病) Mumps (耳腺病) 等の如し.

これにてまづ名詞の大体は終れり. 複數に就ては尙述べたきことあれども 今はしかする能はざる也. 吾人は之より次で進んで形容詞に移るべし.

第 四 章

詞 容 形 Adjectives

1. 定 義 形容詞とは名詞を形容する詞なり.
形容するとは其字に因て名詞の意義に或性質を與

へ又は其意義を檢束する義也。

2. 形容詞の種類 形容詞には六種あり。

- a) Proper Adjective. (特稱形容詞)
- b) Descriptive „ . (説明形容詞)
- c) Quantitative „ . (分量形容詞)
- d) Numeral „ . (數形容詞)
- e) Demonstrative „ . (指示形容詞)
- f) Distributive „ . (分配形容詞)

是也。

3. 特稱形容詞

特稱形容詞とは名詞の應用を或特稱名詞の範圍内に檢束するもの也。The Roman Empire: (羅馬帝國) The German thinker (日耳曼の思想家) Gangesic plain (ガンヂス河流域の平原) 等の如き是也。

4. 説明形容詞 説明形容詞とは名詞の應用を或性質の範圍内に檢束するもの也。The great man (偉人) A brave sailor (勇敢なる水夫) The sweet apple (甘い林檎) (The enormous animal) (巨怪の動物) 等の如し

5. 分量形容詞 分量形容詞とは名詞の應用を分量又は程度の範圍の中に檢束する形容詞也。此種の形容詞の主なるものは much (多く) little (少く) no (一もなく) none (何もなく) some (幾つかの) any (何たるも) enough (十分の)

sufficient (十分の) all (凡ての) whole (全き) half (半の) 等なり

a) Some と Any es

He has procured some bread. (彼は若干のパンを得たり)

He has not procured any bread. (彼は何たるパンをも得ざりき)

即ち吾人は例に因て Some は肯定文に Any は否定文に用ゐらるゝことを知るすべし。されどももし疑問文の場合には兩辭共に用ゐられ得べし。Has he procured any (Some) bread?

b). Little, a little, これを例に因て示せば

He has little money. (little は not much の義なり。

否定の義に用ゐらる。又

He has a little money. (a little は some at least 少なくとも若干の義なり。これは肯定の辭なり。

6. 數形容詞 數形容詞とは名詞の應用を數又は順序にて檢束する形容詞也。

數形容詞は二種類に分たる

a) 定數形容詞 (Definite numerals) とは普通の正しき數を示す。

而してその幾何のものを示すものを Cardinal (原數) といひ。順序を示す數を Ordinals (序數) といふ。一二三四...等は原數にして第二第三第四...等は序數也。又幾度繰り返さるゝかを示すを Multiplicative (倍數) と稱す。

原數	序數	倍數
one	first	single (only one)

two second double (two fold)
 three third triple (three fold) 等

6. 不定数形容詞 (indefinite numerals)

(これは漠然たる数を示すもの也。 All, some, enough, no, none;
 many, few; several, sundry; 等の如し

Few, a few は little と全しく few は not many にして a few
 some at least

Many a, a many 例を擧げていへば

Many a youth danced beneath the greenwood.

They have not shed a many tears.

‘Many a’ は單数名詞の前に来り。 a many は複数の前に来る。

Many a youth とは a youth をくり返す也。 又 a many tears は
 tears の many といふ程の義也とするべし。

7. 指示形容詞. 指示形容詞とは名詞を指定してゐる應用を檢束す
 る形容詞なり。

此種の形容詞は二つに分る。

a). 一物が正しく指定せらるゝ時は之を稱して Definite De
 monstrative といふ This apple (此の林檎) の如し

b). 一物が正しく指定せられずして。 或意義に於て指定せられ
 たる時は之を稱して Indefinite Demonstrative といふ。

例へば any apple (何たる林檎) の如し。

今指示形容詞を表に作りて下に掲ぐ

Definite Dem.

Indefinite Dem.

Definite Dem.	Indefinite Dem.
(1) 單数	複数
The	A, An.
This	One, any.
That, you, youder;	Those, you, youder.
Such.	Such.
The same, Self-same.	The same, Self-same.
The other.	Another, any other.
	Other, any other.

此等の指示形容詞の中 The, A, 及び An は冠詞と稱せられ The を
 定冠詞 Definite article といふ。 A 及 An は之を不定冠詞 Indefinite
 article といふ。 The は「この」或は「その」といふ程の意味なれども。
 日本語にて「この」「その」といふ程の重き意味にあらず。 これは讀書
 の博くなるに従て次第に了解せらるべき字にして。 今こゝに説明を
 重ねども餘りに益なかるべし。 A. と An は同じ意義にして共に
 「一つの」又は「或る」といふ程の意味也。 通常子音を以て始まる言辭
 の前には A を用ゐ。 母音を以て始まる言辭の前には An を用ふ。
 其他指示形容詞の分り易きものはとり除き。 二三のものに就て説明
 すれば

Such は This 又は This kind の意なり。 而して Definite Dem. と
 して用ゐらるゝ場合は前に正しく記載せられたるもの或は後に正し
 く記載せられんとするものに關係すれども。 Indefinite Dem. の場合
 には前に記載せられたるものには關係することなくして。 偶然定ま

らざるものなり

Def. { His praise of me was sincere: I do not like *Such* a man.—(1)
 { *Such* food as we get here does not suit me.—(2)

Indef. { He called at my house on *Such* a day.—(3)

即ち(1)に於て colon 以上の文章にて既に或人の上に就て或事を正しく記載したれば colon 以下の文章にて *such a man* と受けたり。(2)に於ては “food as we get here” といふ或物が言はれんとする場合にして (3) に於ては *such* は或特別意味を有し。日本語にていへば「かくかくの」或は「これこれの」といふ意に當れり。Same の意を強めて Self-same 又は Very-same とす。これ等は皆前に記されたるものに関係すと知るべし

The *other* は前に言はれたる二つのものの中 第二番目のものをさし 第一番目のものは the one にて表はす。Two boys are playing the ball in the garden; The one is older than the other. の如し。こゝに The *other* を附せる或特別の意味を有する句あり。The *other day* といふは或前日といふ程の意味なり。one day といへば或日とか或時とかいふ意味と尙一つ他の意味は或後の日といふ意味を探ることあり。Any は A 又は An よりも意味の強きものにして單複兩數共に用ゐらる。Any man (如何なる人でも) could do that. の如し

Some 日本語の「或る」といふ意義と又は「殆んど」「凡そ」といふ意味を表はす。Some soldier (或兵卒) といへば別に特別の兵卒を指示せざる也。He was obliged to pay some 50 yen to his master. この

Some は「凡そ」の義也。

Another は單數名詞と共に用ゐられ (another man), *other* は複數名詞と共に用ゐらる (other man). 而して共に肯定文章に限らる。Any *other* は單複兩數の名詞と共に用ゐらるゝと雖も否定文章にのみ用ゐらるゝもの也

8. 分配形容詞. この種の形容詞は名詞を個々に別ちて其應用を檢束する形容詞なり。each, every, either, neither 等是也。Each と Every. Each は「二物の一」或は「二物以上の一」の意義也。Every は each より強意にして常に二個以上の數に對して用ゐらる。即ち Each of two days; Every student in the class. の如し

Either は二意義あり一は「二個の中の一」他は「二個の各、即ち兩者共」の義なり。You can take either side. (どちらかを取り得) The river overflowed on either side. (河兩岸に溢れたる) の如し。この字は屢々 or (又は) と共に用ゐらる。「何々か 又は何々か……」といふときに用ゐらるゝものなり。He is either a knave or a fool. (彼は悪徒かもしくは馬鹿かなり)。これ等一對として用ゐらるゝ Either の用法は、接續詞の部に移すべし。Neither は Ne+either にして either の否完文字なり You should take neither side. (何れの方をか探らざるべし)。又 Neither the horse nor the carriage was injured. (馬も馬車も、何れも損傷なかりき)

讀書中此種の形容詞にして尙能く散見せらるゝは Each other (互

々) one another (互々)等の文字なりとす。前者は二人又は三物が
 相關する時に用ゐられ、後者は二個以上の物又は人の相關する
 時に用ゐらる。 The two men struck each other. (二人の人は互
 に打ち合ひたり) They all loved one another. (彼等は凡て互に睦
 み合ひぬ)。の如し

形容詞の二用法。形容詞は其用の方に二種あり。即ち一は
 Idle boy (怠惰なる小供)。の如く形容詞が形容すべき名詞に直
 接に附加したるものにして之を Attribute. といふ。他の一は
 That boy was idle. (其小供は怠惰なりき)の如く直接に名詞に
 附かずして形容詞が文章の賓位の部分に包入せらるゝ場合にし
 て、之を Predicative といふ。

9. 形容詞の比較 (Comparison of Adjective)

比較に三つあり。 *Positive* とは 單一なる性質を表はすもの
 にして、形容詞の普通の形なる beautiful とか large とかの字を
 うのまゝ用ゐて表はされたる形なり。 A sharp knife (鋭き小刀)
 の如き是也。次に *Comparative* とは一層高き性質を表はす。
 而して此の *Comparative* に於ける形容詞は、其形の上に變化を
 來して 語尾に *er* を附す A sharper knife... といへば「何々
 ...より一層鋭き小刀」の義なり。もし語の綴りが一綴よりは
 多きときは、*er* を附する代りに *more* といふ 副詞を附するを
 普通の例とす。 A faithful servant (忠實なる僕)。 A more faithful
 servant (一層忠實なる僕)の如し。次に *Superative* とは最高の

性質を表はす。ものにして、これを表はす形容詞の形は、語
 尾に *Est* を附す。 A boldest sailor (最も大膽なる水夫)の如し
 もし語の綴が一綴より多き時は、*most* なる副詞を加へて *Est* に
 代ふ A most patient man (最も忍耐なる人)の如し。

10. 不規則なる比較法。以上は規則正しき比較法を述べたるも
 のなるが、不規則に其形を變へて比較を表はす形容詞も亦少な
 からず。これ等は一々記憶する程よきことはなけれど、讀書中
 に見當らば 其都度に忘れざる様心掛ければ足れり。今之を下
 に掲ぐ。

Positive	Comparative.	Superative.	
good	better	best	
well	better	best	
{ bad evil ill	worse	worst	
	little	less	least
	{ many much	more	most
far		farther	farthest
near	nearer	nearest, next.	
nigh	nigher	nighest, next.	
late	later, latter.	latest, last.	

old	older, elder.	oldest, eldest.
hind	hinder	hindmost
up	upper	upmost
out	utter, outer.	utmost, uttermost, outmost.

11. 外に羅句語より來れる若干の比較級あり。羅句語の比較級は or にて終るを常とする故此等英語に採用せられたるものも。皆 or にて終れり。而して此等の文字は其比較に當りて、than といふ字の代りに to を用ゆ。例へば This boy is cleverer than that. (此の小供はろの小供より一層伶俐だ) といふは、普通なれども。羅句語形容詞を用ゆるときは、His strength is superior to mine. (彼の力は私の力より大なり) となるが如し。inferior (一層劣れる) anterior (一層先に) posterior (一層後に) senior (一層年どつて) junior (一層年若く) 皆全し。形容詞はやがてこれにて止め次に吾人は代名詞に移るべし。

第 五 章

代 名 詞 (Pronouns)

1. 代名詞とは 名詞又はその同等辭の代りに用ふる言辭也。
Napoleon was a great general; Napoleon fought many great battles. といふに當り Napoleon を二つ繰り返すことはいかにも聞き苦しきことにして。三つも四つも續くときは、更に耳さばりのあしき事甚しかるべし。されば Napoleon was a great

general; he fought many great battles. といへばさゝとりよるし。此の he の如き言辭が即ち代名詞也。(那翁は偉大なる將軍にして。あまたいび大戦争をなしました)

代名詞は普通四種類に分つ。Personal pronoun. (代名詞) Demonstrative P. (指示") Relative P. (關係") 及び interrogative P. (疑問") なり。

2. Personal pronoun とは人を指す名詞の代用をなすもの也。(私は) my (私の) me (私を、私に) myself (私自身) これ等は皆話す人自身が自分を指す言辭にして。第一人稱 (First Person) と稱す。

you (汝は) you (汝の) you (汝を、汝に) yourself (汝自身) これらは皆話す人が自分の話相手に對していふ言辭にして 第二人稱 (Second person) と稱す。

He (彼は) his (彼の) him (彼に、彼を)、himself (彼自身)
She (彼女は) her (彼女の) her (彼女を、彼女を) herself (彼女自身)
It (それは) Its (それの) it (それを、それに) itself (それ自身)

これ等は皆噂さゝるゝ人を指すものにして。第三人稱 (Third person) と稱す。

以上の代詞は能く記憶に止むるを要す。而して上述は皆單數の代名詞のみを列ねたるが。複數の代名詞も又記憶せざるべからず。

單 數 複 數

	主格	所有格	目的格
第一人稱	I,	My (mine),	me,
第二人稱	You,	Your (yours),	you,
第三人稱	男 He,	his	him,
	女 She,	her (hers),	her,
	中 It,	Its,	It,
			They, their, (theirs) them.
			us
			your (ours)
			your (yours) you.

第二人稱にて、今は餘り用ゐられざる Thou, thy, thine, thee 諸語も亦記憶すべし。此の代名詞の用ゐる方は大抵諸子の了解せられし所なるべし。

This is	my	house.	This house is	mine
	her			hers
	our			ours
	your			your
	their			theirs

此は私の家なり。(其他準之) 此の家は私のなり。(其他準之) mine や hers はいかに用ゐらるゝかはこれにて知らるべし。又 self, selves (自身) の附着する言辭は一は他の言辭に同格に用ゐられて、意味を強める用をなす。これは日本語にていふ、私自身とか、汝自身とかに當る他の一は 反動 reflexive といひて、働が出でたるものへの働が戻るといふ義也。例へば John hurt himself. (ジョンは彼自身を傷けたり) といふが如し。reflexive の用法は日本語に於ては殆んど稀に見る所なれども御乙語などに

至りては其語よりも甚しく用ゐらる。この self や selves の附くは第一人稱及第二人稱の所有格、及び第三人稱の目的格に附するものなり。

單數	1. myself.	2. thyself	3. Himself.
		yourself.	Herself.
			Itself.
複數	1. ourselves	2. yourselves	3. themselves.

3. Demonstrative Pronoun. Demonstrative pronoun を其字義通りに嚴格に解すれば、人稱代名詞をも此中に入れて論すべき譯なり。何者此の代名詞は先き立つ名詞に關係して之が代理となる解なれば也。されどもこゝには、單に Demonstrative adjective の形をとれる代名詞に就てのみ考へんとす This, that, these, those, one, ones, none, such の如き是也。まづ例を示すが近道なるべし。He came to my house one day. この one は指示形容詞也 day といふ名詞を形容すれば也。されど Your coat is black; mine is a white one. この one は代名詞也。何者 coat なる先行名詞の代用なれば也。されば、此等の言辭は名詞に繋るゝか或は名詞の省略せらるゝときは形容詞なれども、もし此等の言辭が全く名詞に代用せられ、其後に言ひ表はされたる又は省略せられたる名詞を有する能はざるときは代名詞なりと知るべし。今二三の用法を掲げて此の代名詞を明かにす。

- a). Work and play are necessary to health; this gives us rest, and that energy. (仕事と遊戯は健康に大切なり。これ(遊戯)は吾人に体を與へ、それ(仕事)は吾人に氣力を與ふ。
- b. Dogs are more faithful animal than cats; these attach themselves to places, and those to persons. (犬は猫より一層忠實なる動物なり。これ等(猫)は場所に親しみ、それ等(犬)は人に親めば也
- c. The air of the hill is cooler than that of the plain. (岡上の空氣は平地の空氣よりも冷やかなり)
- d. The houses of the rich are larger than those of the poor. (富人の家は貧人の家よりも大なり)
- e. I studied greek and Latin when I was young, and that at oxford. (予は若き頃 希臘語と羅句語とを學びたり。是をOxfordにて學びたり) 是れは上述の事柄を that にて受けたり。

4. Relative Pronoun.

Relative pronoun は指示代名詞の如く先立つ名詞に關係するのみならず、又二詞の文章を一つに結合するもの也。

I have found the sheep which was lost. (吾は失はれたる羊を見出した)

No people can be great who have ceased to be virtuous.

(徳行のなくなりし人は偉大なる能はず)

which, who は皆 relative pronoun なり。which は sheep なる先立名詞。who は people なる先立名詞に代り。且つ which, who 以下の文章を前文に結合せり。

Relative pronoun は who, which, that, what 等なり。此中主として用ゐらるゝは who と which にして、who は人、which は下等の動物又は毛生のものを表はす。that は人及び物に代り、或ときは who 又は which の代りとなることあり。

今 who と which の變化の状態を掲ぐ：

	Singular and Plural.	Singular & Plural.
	Masculine & Feminine.	Neuter.
nominative.	who ヲレハ……スルトコロノ	which ヲレハ……スルトコロノ
possesive.	whose ヲレノ…… ”	whose ヲレノ…… ”
objective.	whom ヲレヲ…… ”	which ヲレヲ…… ”

That と What とは變化あることなし。what は先行詞なくして言ひ出され得る言辭にして其意味は that which なり。

I can not tell you now what (the thing which) happened.

(私は汝が起つたことを今話すことは出来ぬ)

此外複合体の relative pronoun として who, what, 及び which に ever か Soever を附加して作れる代名詞あり。

- nom. whosoever
- poss. whosoever
- obj. whomsoever. etc.

練習 次の文章中指示代名詞の代りに関係代名詞を置けよ。

This is the house; Jack built it.

—This is the house, which Jack built.

This is the man; I read his book.

The boy has come; he lost his hat.

The girl has come; you were looking for her.

These are the trees; their leaves have fallen.

These men have gone; the box was stolen by them.

5. Interrogative Pronoun.

Interrogative Pronoun. とは問を起すものなり。

此の代名詞には五つの點なる形あり

a). *Who* spoke? (誰が話したか)——動詞の主となるもの。

b). *Of whom* did he speak? (誰に付て彼が話したか)——前置詞の後に來る目的格。

c). *What* did he say? (彼は何をいふたか)——動詞の目的格。

d). *Whose* book is that? (それは誰の本であるか)——所有格。

e). *Which* of these boys will win the prize? (此等の小供の何れが賞品を得るだらうか)

まづ以上が普通用ゐらるゝ形なり。この代名詞は上述に因て既に分明なるが如く *who*, *which*, *what* なり。 *who* と *which* の變化することは關係代名詞に全じ。

之より吾人は動詞に移るべし。動詞の研究は最も複雑にして何

れこの國語にても最も困難なるものなれば、よく注意して考察するを要す。

第 六 章

動 詞 (Verbs)

1. 定義. 動詞とは或物又は人に關して或事を言明せる爲めに用ゐられたる言葉也。

2. 動詞の種類.

動詞は三つの種類に大別せらる。

a). 他動詞 *Transitive verb.*

b). 自動詞 *Intransitive verb.*

c). 助動詞 *Auxiliary verb.*

3. 他動詞. 他動詞とは其働が他のものに及ぶ動詞をいふ

The man killed a snake. (その人は一匹の蛇を殺せり)

此場合に於て *killed* なる言葉は一つの動詞なり。何となれば *The man* が何々したるといふことの爲めに用ゐらるれば也。而して此の *killed* なる字は他動詞也。何となれば、殺すといふ働が *The man* より發して *a snake* に及びたれば也。

凡て此の如く動詞の働が及ぶところの人又は物を表はす言葉はその動詞の目的 (*object*) と稱せらる。而してその働の

生ずる言葉は其働詞の主 (subject) と稱せらる。これ既に諸子の知了する所なり。

4. 自動詞. 自動詞とは働がうの働を生ずるものにて止まり毫も他に及ばざるものをいふ。

Men sleep to preserve life. (人は生命を保全せんが爲めに眠る). 此場合に於ては sleep は働詞なり. 何となれば Men なる文字に就て言はれたる言葉なれば也. 而してこれ自動詞なり. 何となれば. sleep (眠る) といふ働は唯 men のみに關はりて文中毫も他の人又は物に及ぶなければ也.

5. 助働詞. 助働詞とは或他の働詞の時 (Tense) を作ることを助け 又はその意味を加味する (modify) に役立つ働詞也

I may sleep. I will work. you can swim.

Did you speak? He should learn.

may, will, can, did, should 等は皆助働詞也. その本働詞はるれ々々 sleep, work, swim, speak, learn 等なり. may, will …… 等の助働詞はるれ々々 sleep, wak, …… 等の本働詞と相合して現在過去未來等の時を作ることをなし又はその意味の上に勢力を及ぼすもの也. こゝにいふ本働詞ては英語にて Principal verb といふ:

さて吾人は之より更に詳細に各働詞の研究をなすべし

6. 他働詞.

多分の他働詞は只一個の object を有するを常とす. 而して此

の object は種々の形に於て表はし得るものなるが. その主なるものは概ね次の如し.

- a). Noun—The man killed a snake with his stick.
b). Pronoun—The man lifted we up out of the water.
c). Infinitive—He desires to leave us to-morrow.
d). Gerund.—He disliked sleeping in the day-time.
e). Phrase.—No one knew how to make a beginning.
f). clause.—We do not know who has come.

諸子は此の例によりて Infinitive (to leave), gerund (sleeping) 等は. 如何なる形のものなるやを學ぶべし. 即ち働詞の本來の形 (働詞は之を表はすときはいつも to を附す) と ing を附したる形となり.

7. Object の位置.

働詞の object たる名詞は普通其 object に關する働詞の後に置かる. されどもし object が relative Pronoun 又は Interrogative pronoun なるとき. 又は強意 (emphasis) が object として用ゐられたる Noun の上にあるときは. object は働詞の後に置かるゝことなく. 却て其前に置かるゝものなり. 例へば

Relative. The man whom I saw yesterday has come back to-day.

Interrogative. what did you say? whom were you looking for?

Emphasis:— *Silver and gold* have I none; but *what* I have give I unto thee.

下線を施したものに注意すべし。relative pronoun の whom は object なり。されども此の場合にはるの属すべき動詞 saw の前に在り Interrogative の場合には did say の object は what なり。又 were looking の object は whom なり。最後に Emphasis の場合は日本語に譯すれば「黄金や白銀や、ろんなものは一向持つて居ませぬ」となるなり。即ち黄金白銀の意味が非常に強きなり。普通の文章に直せば I have not gold and silver なり。これにて gold and silver に於ける意味甚だ輕し。

8. 二重の Object.

或他動詞は其後に二個の objects を取る事あり。而してるの一つは通常或物の名にして他の一は人又は動物の名なり。此の如き場合に於てるの名ざゝれたる物(thing) は Direct Object と呼ばれ。名ざゝれたる人又は動物は (Person or animal) は Indirect Object と呼ばる。

註. Direct object と Indirect object とを區別する他の方法は、先に立つものは常に Indirect object なることを以て區別すべし。もし Indirect object が Direct object の後に置かるゝ場合にはるの Indirect object は 'for' とか 'to' とかといふ前置詞に因て先立たるゝものなり。

○次の文中より Indirect と Direct とを撰ひ出すべし。

I forgave him his faults. (予は彼に彼の過を許したり).

He taught me English. (彼は予に其語を教へたり).

I have asked you a Question. (予は汝に一つの疑問を尋ねたり).

The man told me the story. (その人は予に話を語りたり).

He did me a great kindness. (彼は予に大邊親切にして呉れた).

He taught Euclid to his sons. (彼は彼の小供等に Euclid を教へたり).

9. Factitive verbs. 只一個の object をとる transitive verb にして尙るの意味を完全にする爲めに 或一個又は二個以上の言葉を要するものを Factitive と呼ぶ。而してるの意味を完全にする爲に用ゐられたる一個又は二個以上の言葉は Complement と呼ばる。

此の Complement には七個の異なりたる形あり。——名詞 形容詞, 分詞, Object を有する前置詞, 不定法の動詞, 副詞, 及び 名詞成分是也。

	subject.	verb.	object.	complement.
Noun:	They	made	him	king.
Adjective:	The judge	set	the prisoner	free.
Participle:	They	found	her	still weeping.
Prep. with object:	This plot	filled	us all	with terror.
Infinitive:	I	like	a rascal	to be punished.

Adverb: They found the man asleep.

Clause: we have made him what he is.

註. 或動詞に Complement を加ふるの必要は次の例にて明かに見らるべし. 例へば "I like a rascal to be punished" といへばよろしけれど, to be punished なる Complement を用ゐず單に I like a rascal といへば如何. ろは吾人が言明せんとする意味と全く反對の事なるべし. 吾人は悪漢の罰せられん事を願へども 決して悪漢を好むものに非ざればなり.

10. Object として用ゐらるべき Relative を省略する事.

此の作用は或二種の文章に生ず. a). 動詞が他動詞なる時

b). verb が自動詞にして前置詞に因て従はれたる時. 是也.

a). The books () I bought cost three rupees.

The house () we occupied has fallen down.

The man () I engaged has now come.

He was not careful about the air () he breathed.

括弧の中には何れも relative の入るべきなれども之を省略するを得る也. 諸子は試に括弧内に適當なる relative pronoun を挿入すべし.

b). The house we lived in has fallen down.

The chairs we sat on are ten in number.

We have at last got the thing we fought for.

I have bought the book you spoke about.

これも亦試に relative pronoun を入るべき場所を探がして之に挿入すべし.

11. 自動詞的に用ゐられたる他動詞.

他動詞が自動詞となり得る二つの仕方あり.

a). 動詞が極めて一般の意義に用ゐられて, ろの爲め何等の objects も思想の上にあらざる様な場合

Men eat to preserve life. (人は生命を保全せんが爲めに食ふ).

eat の如きは何を食ふといはずとも, 生命を保たんが爲めに食すといへば別に何をといはずとも分り切つた話也.

b). Reflexive pronoun の省除せらるゝ時

He drew (himself) near me. (彼は手の近くへ寄れり).

drew といふ Transitive verb は himself といふ reflexive pronoun を有するは正當なれども, ろういはずとも, 單に drew near me といへば殆んど himself といふ字を考ふる餘地なき程意味明かなり.

12. 自動詞.

完全なる意義の自動詞 とは自動詞られ自身にて完全なる意味を表はし, 何等他の言義をも借りて其意味を補ふの必要なものをいふ也.

River flows. Winds blow. Horses run. Birds fly.

不完全なる意義の自動詞 とは 自動詞自身にては完全なる意味

となす能はず。動詞が言明せずして残したるものを補充する爲めの Complement を要する動詞を指していふ也。

自働詞の Complement は Factitive verb の Complement と全しき形を有するもの也。

	subject.	verb.	complement.
Noun.	A horse	is	a four-legged animal
Adjective.	The man	has fallen	sick.
Participle.	The man	appears	pleas'd.
Prep with object.	your coat	is	of many colours.
Infinitive.	The flower	seems	to be fading.
Adverb.	The man	has fallen	asleep.
Clause.	The results	are	what we expected.

註. もし complement が Intransitive verb の後に來るときは之を subjective complement といふ。その Subject に関するが故也。されどもし Active voice に於ての Factitive verb の後に來るときは之を objective complement といふ。その object に関するが故也。

註. complement は通常その動詞の後に立つものどす。されど強意 emphasis を要する場合にはその前に置かる。

Strait is the gate, and narrow is the way that leadeth unto life, and few there be that find it.

(生命に至る門は狭くその途は狭し。之を見出すもの世に鮮し)

13. Cognate object.

自働詞は他働詞の如く、外物を指す名詞を伴はざるものなれども、或場合に於ては、自働詞其自身の中に其意味を含有する名詞を伴ふことあり。かゝる場合には此の名詞を Cognate object といふ 例へば

He laughed a hearty laugh. (彼は心から笑ひたり)

の如きに於て laugh (笑) といふ名詞は既に laughed といふ自働詞の裡に含まれある也。日本語にて之を直譯すれば、實に妙な言葉となる。「笑を笑ふた」とは全く日本人の思想になきこと也。外國語にはよく此様のこと多し。今他に尙二三の例を擧ぐべし

He lived a long life. (彼は長命せり)

He slept a sound sleep. (彼はグツスリ眠れり)

(sound sleep は深く熟睡するをいふ)

He sighed a deep sigh (彼は深く歎息をもらせり)

He went a long way. (彼は長途を行けり)

此 Cognate noun の用ゐ方にはいろ々々あれども今は先づ上述のものみに止むべし。いろ々々の場合はその折々に説明すべし。

14. Reflexive object.

They sat them down. (彼等は坐れり)

此の様なかき方に於ける them を reflexive object といふ。

reflexive とは反歸の義なり。They といふものより働が出で、they と全し人なる them に働が反歸するよりかく名付くる也。

此の例の二三。

He over-ate himself. Vaulting ambition which o'erleaps
itself. Haste thee away.

この Reflexive object は英語には比較的になく、獨佛の語などには随分多し。

15. Intransitive verbs in a causal sense.

Causal sense に於ける自働詞とは、或事柄を成されしむる意味に用ゐられたる自働詞の義なり。例へば fly (flow) といふは自働詞也。されば The kite flew into the air. といへば flew は全然自働詞の意味に於て用ゐられたり。されどもし He flew the kite. といへば flew は他働詞の意味となる。つまり言ひ換ふれば、彼は鳶紙を飛ばさしめたの義にて或事柄を成さしむる意なりかゝる用ゐる方の働詞を Causal sense の自働詞といふ。而て此の意味に用ゐられたる自働詞は自然の勢 他働詞の意味を有するに至るは前述に因りて明かなり。

The soldiers march out.—He marches out the soldiers.

The boat floated.—He floated the boat

Wheat grows in the field.—He grows wheat in the field.

左は自働詞の例にして右は Causal sense を有するもの。即ち他働詞に變りたるものなり。此の例は英語には甚だ少なきことと知るべし。

16. Prepositional Verbs.

前置詞的働詞とは、自働詞が其後に前置詞を附加して他働詞となりたる場合をいふ。而して此の如き働詞は受け方 (Passive) 的に用ゐられ得るものなればいつも全然他働詞と考へらる。

We act on this rule. (働き方)

This rule is acted on by us. (受る方)

吾人はこれにて大抵 Verb の種類に對する概念を得たり。之より吾人は 働き方 (Active) と受る方 (Passive) どの働詞に移るべし。助働詞に關する講義は後章に譲るを便利とする以て此處には省きたり。

能働及被働の働詞. (Active and Passive Voice)

1. 他働詞に二つの働き方あり。能請 (Active) 及被働 (Passive) 是也。
2. 六ヶ敷規則をいふよりも。例を以て此の二つを説明する方分り易かるべし。

John kills a snake. (John が蛇を殺す)

A snake is killed by John. (一頭の蛇が John に殺さる)

前者を Active voice といひ後者を Passive voice といふ。

さて Active voice とは 主辭に因て示されたる人又は物が、他の人又は物に或事を成す ことを表はす場合には、その働詞を Active voice の働詞といふなり。例に於て John. といふ 主辭に因て示されたる人が 他のもの即ち Snake に對して或事を成すことを表はせり。故に kills は Active voice の働詞也。Passive

voice といふは人又は物が他の或物よりして 或事を受くるといふことを表はす働詞なり。例に於て Snake は John といふ人に因りて殺すといふ働を受けたることを表はせり。故にこれ Passive Voice の働詞也。

3. 前述の例に於て明かなるが如く、もし或文章を Active より Passive に變せんとするときは、Active verb の object は Passive verb の subject となるべし。

object to Active verb. Subject to Passive verb.

Brutes cannot make tools. 'tools cannot be made by brates.
Active と Passive とに就きて詳細なることは、今さまで必要あらずと覺ゆ。今は只二者の大体の性質を知るに止むべし。次に文法上の形式の第二の形なる法 (mood) に移る。

働詞の法 (mood).

1. 働詞の mood とは 働詞によりてなざる、記載の態様 (mode or manner) を示すものなり。この mood の研究は中々六ヶ敷もの故、よく注意して見るべし。ろも々々 記載の態様とは如何なるものなりや。今下に二三の例を掲げて之を説明すべし。

- a). The earth revolves around the sun.
- b). We may go to Europe next year.
- c). If we go, we will return in the autumn.
- d). Go away.

即ち此の四つの場合に於ける働詞は各異なりたる記載の態様を表はす。(a) の場合に於ては、「地球は大陽の周圍を回轉す」といへばこれ 事實の確定なり。たしかに現在しかあることを表はす。かゝる言ひ表はし方を稱して吾人は之を Indicative mood といふ。次に (b) の場合に於て、「我等は明年歐州に行くかも知れぬ」といふは、これ確かに笑るといふに非ず。かも知れぬとや、弱き意味を含めり。かゝる言ひ表はし方を稱して、Potential mood といふ。次に (c) の場合には、If we go, ... 「もし我等が行くならば秋に歸るならん」といふ表はし方は、もしといふ言葉が附きて、行くか行かぬか知らぬが、もし行くとすればといふ意味也。かくの如き言表はし方を Subjunctive mood といふ。次に (d) の場合 go away. といへば「あちらへ行け」と命するなり。かゝる言ひ表はし方を Imperative mood といふ。此の外に尙一つ働詞の本源の形 (to の附きたる形) を Infinitive mood と稱し、都合五個の mood の存するを見る。

(人によりては Potential mood の一頂を特に設くるを否定する人あり。されども今こゝには在來の例に従て、この一頂を加へ置きたり。)

2. Indicative mood.

前述いさゝか Indicative mood の如何なるものなるかを述べ置きたしが、今更に之を詳しく説かんに、Indicative mood の記載法とは事實又は事實として考へられたるこの記載といふ也。

この記載の現在未來過去は之を問ふことなし。

The Romans were victorious. (過去)

You are writing a letter. (現在)

We shall set out to-morrow. (未來)

この Indicative mood の記載法を形式に表はせば下の如し。

Active Voice.

	Present.	Past.	Future.
a)	I love	I loved.	I shall love.
b)	I am loving.	I was loving.	I shall be loving.
c)	I have loved.	I had loved.	I shall have loved.
d)	I have been loving.	I had been loving.	I shall have been loving.

以上は Active voice に於ける Indicative mood の形式なり。

Passive voice の方を見るに

	Present.	Past.	Future.
a)	I am loved.	I was loved.	I shall be loved.
b)	I am being loved.	I was being loved.	ナシ
c)	I have been loved.	I had been loved.	I shall have been loved.

今こゝに mood に就て詳しく述ぶることは却て諸子の迷の種となるべければ、詳説は今少し熟達の後にするこゝとして各 mood に就て大体の考を興ふるに止むべし。

3. Potential mood.

前にも言ひしが如く、近代の文典學者は屢々特に この Potential mood の一項を設くるを否むものあり。されど今こゝに特に此一項を設くる所以は諸子をして動詞に對する觀念を構成するに容易ならしめんが爲也。

Potential mood とは、然かあるらしきこと (possible) 期待すべからざること (contingent) 義務的のこと (obligatory) 等の記載法也。

(Potential mood は、Subject に因て表はされたる物が 何々を成す (does) 又は 何々である (is) といふことを表はすに非ず。

これ等を表はすは Indicative mood の務なり。Potential mood の表はすは Subject に因て表はされたる物が 何々を爲し得る (can, could) 何々を爲さねばならぬ (must) 等のことを表はす mood なり。其語に於ては普通此 mood を表はす文字は may, might, can, could, must, would, 又は should do or be 等の文字に因る。

James can write a letter. (ジェームスは手紙を書き得)

We may be happy yet. (だが吾人は幸なるならん)

Children should obey their parents. (小兒は両親に服従せざるべからず)

予は諸子が此 mood に關して 餘り多くの勞力を拂ふことなきを希望するが故に詳説も極めて簡單に述べたり。次に吾人は

文法上最も困難なる Subjunctive mood に移るべし。

4. Subjunctive mood.

これは譯して接続法と稱するものなるが、此 mood の特質は或他の文章に附隨せられて存するにあり、その自からのみにて存すること殆んど稀なり矣、而して其性質は、一個の假定法ともいふべきものにして、實際然かあることなけれども、然かあるべく物事を想像して述ぶるなり、例へば、

If he *were* here, he would act differently.

(彼が此處に在りてならば、彼は異なりたる風で働きしならん)

If he were here は一種の假定也、實際此處に彼は居らざれどももし居つたとすればと假定したるなり、而して此接続法は、此例に於て見ゆるが如く he とすれば were とするが如き一種文字上の慣習を有す、ろを今一々こゝに列記するには、初學者にとりて勞多くしてさまでの功果を収める能はざるべければ、こゝには此 mood に就て記述すべき特質を述べて、此 mood に對する大体の觀念を得るに止むべし。

a). Subjunctive mood は一般に(常にとはいはず) if, that, lest, though, unless 等の如き 接続詞の 一に因て先立たるものとす。

b). されど注意すべきは事、ろの接続詞なるものは mood ろれ自身の一部分にはあらず、ろの證據には、接続詞なくと

も、動詞又は助動詞を subject の前に置きて以て直に subjunctive mood の記載法となし得べければ也、例へば If he were ... は were he ... と書くに全じく、Had he gone ... は If he had gone と書くに全じかるべし。

5. Imperative mood.

命令法とは其名の示すが如く命令を表はす記載法也、こは別に詳しく説くの要もなかるべし。

命令法の主なる用法は 1). 命令 2). 教訓 3). 願望 にして、其例を擧ぐれば

a). 命令. Awake, arise, or be for ever fallen.

(目さめよ、起てよ、しからずは長しへに倒れてあれ、)

b). 教訓. Go to the ant, thou sluggard; consider her ways and be wise.

(蟻にと往け、懶惰者よ、ろのやり方を考へて賢くあれ、)

c). 願望. Give us this day our daily bread.

(我等の日用の糧を今日も與へ玉へ、)

Imperative mood は時としては感想定を表はすに用ゐらるゝ事あり、例へば、

Resist the devil, and he will flee from you.

(惡魔に抵抗せよ、さらば彼は汝より逃れ去るべし)

言ひ換ふれば、If you resist the devil, he will ... にして、もし

汝が悪魔に抗するならば、彼は汝より逃れ去るべしの意なり

6). Infinitive mood.

此 mood に於ては動詞は subject と結合せらるゝことなく、従て subject の人稱又は数によりて何等の影響を受くるが如きことあるなし。さればこの點よりして先に述べたる四個の mood は Finite と呼ばれ、この mood は Infinite と呼ばるゝ也。つまり subject の人稱や数によりて制限せらるゝが故に、定法 finite といひ、制限せられざるがゆゑに、不定法 I. finite; といふ也

即ち最も簡單なる Infinitive の形は to を有する動詞の原形例へば to send の如き是也。其他の形は皆複雑したる infinitive なり。其例を擧ぐれば

He wishes to write. (彼は書くことを願ふ)

He is said to have written. (彼は書いたといふことだ)

Infinitive に尙他の形あり。語尾に ing の附きたるものにして之を Gerund といふ。而してこの ing の附したるものは又更に簡單なる形と複雑なる形とを有す。

I like reading. (予は讀書を好む)

Through having lost his book, he could not learn his lesson.

(彼の書籍を失ひし事により、彼は課業を學ぶ能はざりき)

即ち Gerund に於て複雑なる形とは成動詞の Past participle と have の Gerund。簡單なる形とを結合するに在り。

尙一ついふべきことは Participle のこと也。簡なる Participle の形は動詞の語尾に ed を附したるものと ing を附したるものにして、前者を past participle、後者を Present participle といふされど其複雑したる形は、動詞の past participle に to have なる字の present participle を附して形成す。having walked の如し。かくの如きを perfect participle といふ。gerund と participle とは、其形に於て全じき所あるも、其性質は全く異なれり。是は gerund に在りては、動詞が一種の中性名詞の性質をとれども participle は形容詞的、或は副詞的性質を有するもの也。

吾人はこれにて mood に對する大体の觀念を了り、之より Tense(時)と Tense と mood の關係を考ふべし。

Tense

Tense とは或動又は事柄の現在に屬するか、未來に屬するか、將た又過去に屬するか、等の如き時を示すところの Verb の文法上の形式也。

文法家によりては此の Tense を分類して種々の差異を立つる人あれども、今は極めて簡單に時の如何なるものなるかに就ての概念を與ふるに止むべし、而して Tense を分て 六個とす。乃ち、

1). Present tense, 2). Past tense, 3). Future tense, 4). present perfect tense, 5). past perfect tense, 6). Future per-

fect tense. 今こゝに各の tense に就て詳述するより、も此等の tense が各 mood に伴て應用さるゝ様を示す方理解し易かるべし。

Tense を有しての mood.

1. Indicative mood. Indicative mood は以上六個の Tense を悉く有す。

a). Present tense. Indicative mood に於ける present tense とは 或働又は事柄が 在生じつゝあることを表はすもの也。例へば

I see the flower (予は花を見る)

といへば 花を見るといふ事は 話しする者が 現在自分が 爲しつゝあることを表はすもの也。You smell its perfume. (汝は香を嗅ぐ) も亦全に次にて present time なる。

b). Present perfect tense とは 或働又は事柄が 現在に於て完全にされたる事を表はすか又は現在が其一部分たる或時期 (period) に於て完全にされたることを表はす。例へば

I have walked six miles to-day.

(予は今日六哩歩みたり)

have walked (歩みたりと) いふ働は Present perfect なり。乃ち 歩んだといふ事が現在に於て完全にせられたるなり。以上 present と present perfect とに於て諸子は直に文字の形式を看取するなるべし。乃ち present に於ては働詞の原形

see とか smell の如き形方のまゝなれども perfect に至りては have walked の如き 複合せる形を取ることも也。凡て何れの mood に於ても perfect tense のときは いつも必ず have 又は其變形せる文字が附隨し居るものなることを注意すべし。

c) Past tense. Past tense とは 働詞が全く過去 (Past time) に於てなされたる働を示すもの。

例へば "He saw a star". (彼は一つの星を見たり)

"Columbus discovered America." (コロンブスはアメリカを發見せり)

注意. 働詞が Past tense を形作るには通常 働詞の原形に ed を附加す。discover—discover=ed の如し。此の如くにして past tense を作り得べき凡ての働詞を稱して 規則働詞 Regular verb といふ。しかし數多の働詞の中には此の如く簡單に其 Past tense を作り能はざるものあり。例へば see (見る)—saw (見たり) の如き是也。此の如き働詞を不規則働詞 (Irregular Verb) といふ。而して此の不規則働詞は其數甚だ多しといふ程にもあらず。辭書末尾に表に作りて載せあれば、之に依て 現在、過去、及分詞の形を覺ふること肝要なり。もし之を知らざれば英文は讀むこと能はず。一時骨相の様なれども覺ゆれば忘るゝことも減多になきもの也。今一二の例を示す。

現 在. 過 去. 分 詞

(56)

英 文 法

tell	told	told
find	found	found
take	took	taken
go	went	gone
write	wrote	written
buy	bought	bought
fall	fell	fallen
sleep	slept	slept
sell	sold	sold
eat	ate	eaten

等の如し

d) Past Perfect tense. 讀者諸子は Present Perfect tense の

條に於て Perfect とは如何なる意味なるかをやゝ覺られしなるべし。茲に又之を説くは稍複雑の嫌なきにしもあらねども前に十分盡さいりしを以て更に一言すべし。

perfect とは完全といふ意なり。されば present, past, 及び Future の Perfect tense とは、現在、過去及 未來に於ける出來事が已に最早完了したる有様即ち完全なる有様に於てあるといふことなり。換言すれば 一の出來事が現在、過去もしくは未來に於て已に仕遂げられたる有様に於てあるをいふ也。

されば Past Perfect tense とは 成る過ぎ去りし時に、もし

英 文 法

(57)

くは其以前に於て既に成し遂げられたるものとして或出來事を表はす。例へば

I had written three letters before breakfast Yesterday.

(予は昨日朝食前に三通の手紙を書きたり)

The steamer had left when the mail arrived.

(汽船は郵便が到達せしときに出發せり)

e) Future tense. とは或出來事が 將に生せんことを示す。

I will see you again. (再び君と相見ん)

この Future tense を形作るには働詞の原形と助働詞 shall 又は will とを結合して作る。shall 及 will の用法の詳細は別に一部の書にも綴り得べき程なれどもは餘暇あれば更めて記載すべし。

f) Future Perfect Tense. とは或出來事が尙未來に屬する或時にか或は其以前に完了せらるゝならんことを表はす。例へば。

I shall have finished my letter by noon.

(予は晝頃に手紙を書き了つたであらう)

Potential mood.

此の mood は四つの tense を有す。the present, the present perfect, the past, 及び the past perfect. 是也。

註. こゝに注意すべきは、この potential に於て tenses と

稱ふるもの先決して時の關係を表はすものには非ず。次に説く所を見て知るべし。

a). present Potential. とは現在又は未來の働又は出來事のカ。有り得べきこと。自由又は必要を表はす。而して此の tense を形作るには働詞の原形と助働詞 may, can, must を結合して形成す。二三の例を掲げんに。

You may leave (now). It may rain (to-morrow)

The boy can write (now). She must go (now or next week)

b). Present Perfect Potential とは過ぎ去りし働又は出來事に關して。現在のあり得べきこと。自由又は必要を表はす。

He may have written. 其の意味は「彼が書いたといふことと實際有り得べきことなり」といふ義にして現在より過去の事のあり得べきを言ひ表はせる也。

I must have written yesterday. 其の意味は「予が昨日書きしことは必要の事なり」といふ義にてこれも矢張り現在より過去の必要を表はしたるものなり。

c). Past Potential. この tense の表はす意味には種々あり。

1). 過去の有り得べきこと

I could not reach the train, for I was delayed by the way. (予は途中にて随どりしたため。汽車間に合はざ

りき。

2). 現在の有り得べきこと又は自由

3). 未來に於て有るらしきこと

I should return next week, if I were to leave to-day.

(もし今日去るとすれば次週歸るであらう)

4). 習慣的になりたる過去の働

There would she sit and weep for hours.

(ここに彼女を數時間の間座りて泣くを事とせり)

5). 時間に無關係の義務

Children should obey their parents.

(子供は其兩親に柔順ならざるべからず)

此の tense を作るには働詞の原形と助働辭 might, could, would, 又は should とを結合して形成す。

註. might は may. could は can, would は will, should は shall. の過去辭也。

d). Past Perfect Potential. とは仕遂げられざりしか又は生ぜざりし過去の出來事に關して有り得べきこと。自由又は能力を表はす。

I could have helped you, if you had asked me. 其の意

味を「予は汝を助くること能ひし也。されど汝は予を

願はざりしが故に予は授けざりき」の

Subjunctive.

Subjunctive mood に於ては二つの tenses あり。Present 及び Past 是也。

a). Present subjunctive. これは極く簡單なる tense にして現在に於て或出來事を想定する也。通常接續詞等によりて導き出さる。

注意. 此の tense は屢々未來に關係を有す。詳しくいへば 想定されたる未來の出來事に関して現在の不確定を表はす。

If I go, I shall go alone. (もし予行くとすれば予は 獨りで行くだらう。If I go は If I shall go と全じ義也。而して行く行かぬは未來の問題也。それを現在に於て不確實に表はす也。

b). Past subjunctive. 此 tense の主なる用法は

1). 現在を或事に關しての想定 及び 同時に其想定は一方に於て其想定を否定すべき意味を含むとき。例へば

If I were rich, I would give freely.

(予もし富めるならば、予は自由に施すであらう) 之に If I were rich といふは現在成事を想定したる也。然るに其裏には、「予は富めるに非ざるが」といふ意有ること明かなり。

2). 願を表はすときに用るるゝことなり。例へば

O had I the wings of the dove!

(嗚、吾れ鳩の翼を有したらんには)

3). 結果を表はすときに用ゐる。

If it were done when 'tis done, then 't were well.

(もしろのこと。成さるべき時に成されたらんにはよかりし)。

Imperative.

Imperative mood 是は Present tense 一つを有するのみ。これは命令を與ふる時に關係す。勿論 其命令の仕遂げらるゝは未來のことに屬す。

mood と tense との關係は以上畧其大概を述べたり。されど近代文典學者は精細なる研究を積みて、一層精緻なる分類を試みたるが、本講義に於ては時日紙數の都合より、之を叙説する能はざるを恨みとす。以上に述べたるは稍陳唐に屬する説たるの嫌を免れざるべしと雖も、初學者文典の概念を得るの便には足るべし。尙 mood と tense とに關しては時日に餘りあれば更に記すところあるべし。

數及人稱 Number and Person.

Verb には二つの數あり。ろは名詞の如く單數及複數是也 例へば The man walks. The men walk.

又人代名詞の三つの人稱に對して、働詞にも矢張り三人稱あり。第一人稱、第二人稱、第三人稱是也。

凡て人稱及數は働詞に於ては全く文法との關係によりて表示せらる。今下に表を掲げて説明すべし。

	單數	複數
Indicative	第一人稱	I love we love
	第二人稱	Thou lovest Ye 又は You love
	第三人稱	He loves 又は loveth They love

これは Indicative mood の Active voice, present tense の場合なるが、第二人稱單數にては 働詞は語尾に st を取り第三人稱單數に而は s 又は th を取るが如し

注意. 第二人稱單數 Thou, thy, thee なる語は、詩歌に用ゐらるゝ外、普通用ゐらるゝこと殆んど稀なりとす。而して通常第二人稱單數は 第二人稱複數を以て表はさる。されば第二人稱複數は今は單複兩用をなすものと知るべし

助働詞の變化. 働詞の中にはるの働詞自身にては 働をなす能はず。他の働詞と結合して初めて働き得る働詞あり。此の如きを助働詞といふ。be, do, have, shall, will, can, may, 及び must 是也。

以上の中 Be, do, will 及 have は助働詞として用ゐらるゝ外、普通の働詞として用ゐらる。例へば I am とのみにては何の意もなさず。此の場合に於て am は何の働もなき也。されど I am loved と loved なる字の加はりて初めて意を成す。この場合には am は love なる他の

働詞と結合して初めて其意を成せる一個の助働詞也。又 I am a man. といへば am は別に他の働詞の助をかることなくして働き居るなり。此場合には am は助働詞に非ずして 主要働詞の役目をなし居るなり。

こゝにて働詞の講議を終るは、物足らぬ心地せらるれども、働詞の詳論は 更に後に説くこととし、今は進みて副詞に移るべし。

副 詞. Adverb.

1. 副 詞の定義

副詞とは、名詞、代名詞の外、凡ての品詞の意義の範圍を限定する (qualify) する詞也。

注 意. 文典學者によりては、副詞は、働詞、形容詞、又は其他の副詞を qualify する詞となすものあれども、實際に於て副詞は 前置詞、接續詞をも qualify すること屢々なり。(verb を qualify する副詞)——He stayed long. (彼は長く停まれり)。long は副詞也。何となれば stayed なる働詞を qualify すれば也。詳しくいへば 彼は止つて居た。いくばくの時の間かといふに長き間停まり居たり。といひて其停まり機の長短を表はす。

(adjective を qualify するもの)。——The swords are exceedingly sharp (劍は非常に鋭し)。sharp なる adjective を qualify せる副詞は exceedingly 也。鋭さの程度を表はせるもの。

(其他の adverb を qualify するもの).—He speaks very loud.
(彼はいとも大声に話す). loud なる adverb を very なる副詞が qualify し. loud の度を表はす.

(Preposition を qualify するもの).—The bird flew exactly over the sleeper's head. (鳥. 睡人の丁度頭の上を飛び).

こゝに exactly なる副詞は over なる前置詞を qualify せるもの也. 此の如き例二三.

He was sitting almost outside the door.

He arrived long before the time.

He wept partly through sorrow and partly through anger.

(接續詞を qualify せるもの).—I dislike this place simply because the air is too hot. (予は此の場處を厭ふ. ろは只空氣が餘りに暑きを以ての故のみ).

simply なる副詞は because なる conjunction を qualify せるもの也. 「單にかくの故で」と because を限れること明瞭也. 此の如き例の二三.

A man is truly happy only when he is in sound health.

They locked the door shortly before the thieves come.

2. 副詞は 獨り 個々の言葉 (Individual words) を qualify するのみならず. 又全き確定文をも qualify する.

此場合に於て 副詞は 文章の首初に置かるゝものとす.

Unfortunately the thief was not caught

(不幸にも盗人は捕はれざりき)

此かる場合に於て Unfortunately は the thief 以下の文を qualify するものにして. 別に特個の言葉を qualify するものにあらず.

Evidently you were much distressed at the news.

も全様の例也.

注: 意. 吾人は一見して屢々 adverb が nouns を qualify せるが如き書き方に接することあり. 例へば

A for country. The above account.

The then king.

かくの如く用ゐられたる副詞は. 直に nouns を qualify するといふべからず. 何となれば Participle 又は adjective の脱却せられたるものを qualify し居るものなれば也. 即ち.

A far country = a country far distant.

The above account = the account given above.

The then king the king then reigning.

の如し.

又 He is almost a drunkard. といふに. 此の almost なる adverb は 決して drunkard なる noun を qualify せるものに非ずして. is なる verb を qualify せるものなり. 故に article を adverb の前に置くときは 大なる間違なり.

3. 單純なる副詞。

副詞の單純なるものは、その意味に従て下の如く分つを得

a). 時 Time に関するもの。例へば、

He did this before, and you have don it since.

He will soon arrive. He was taken ill yesterday.

此種の adverbs の主なるものは次の如し

Now, then, before, since, ago, already, soon, presently,
immediately, instantly, early, late, afterwards, yesterday,
to-day, to-morrow.

b). 場所 Place に関するもの。例へば、

We must rest here, and not there.

此種の副詞の主なるものは、次の如し。

Here, there; hence, thence; hither, thither; in, out; within,
without; above, below; inside, outside; far, near; etc.

c). 數 Number 數に関するもの。

He did this once, but he will not do it again.

此種の副詞の主なるものは 次の如し

Once, twice, thrice, again, seldom, never, sometimes, always,
often, firstly, secondly, thirdly, etc.

d). 態様 Manner, 性質 Quality 性質, 又は有様 State 状態

に関するもの。He did his work slowly, but surely.

此種に属する主なる副詞は次の如し。

Thus, so, well, ill, amiss, badly, probably, certainly, conveniently, etc.

e). 量 Quantity, 擴張 Extent, 又は度 Degree に関するもの

He is almost, but not quite, the cleverest boy in the class.

此種に属する副詞の主なるものは 次の如し

Very, much, too, quite, almost, little, a little, rather, somewhat, half, partly, wholly, so, etc.

注意. adverbs, thus, so, 及び the は指示副詞 demonstrative adverb と呼ばれる。ろは此等は指示形容詞と性質に於て甚だ近きを以て也。—thus 及 the は this 及 that に, so は such に。類性なれば也。

Thus.—He did it thus, (in this or that manner.)

So.—He loved her so, (in such a manner or to such extent).

The.—He worked the (to that extent) harder, because he had been encouraged.

注意. adverb として用ゐられたる the は比較極に於ける adjective 又は adverb の前に用ゐらるゝ外、用ゐらるゝことなし。定冠詞と明かに區別せらる。

f). 肯定と否定. Affirming or denying.

He did not come after all.

此の種に屬する主なる副詞は次の如し。

Yes, no, not, yea, nay, not at all, by all means, etc.

4). 疑問副詞 Interrogative Adverb.

こは疑問を發するとき用ふる副詞なり。

a). 時: — When did he come? How long will he remain here?

b). 場所: — Where did he stop? whence has he come?

c). 數: — How often did the dog bark?

d). 態様. 性質. 狀態: — How did he do this? How (in what state of health) is he to-day?

e). 量及度. How far (to what extent) was that report true?

f). 原因又は理由. Why (for what reason) did he do this? wherefore did she weep?

5). adverb, "How" は時に 叫呼 exclamatory の意味に於て用ゐらるゝことあり。

How often have you been cautioned!

量及度の意味に於ける what は. 全様に exclamatory sense に用ゐらる。

what a foolish fellow you are!

6). 關係副詞 Relative Adverbs.

此の關係副詞と稱するものは其形に於ては疑問副詞と相全じと雖も. 其用法は之と異なり二つの文章を結合する爲めに用

ゐらる。されば關係副詞は二重の務をなすものにして. 副詞と接續詞と混合したるが如きものなり。されば文典學者によりては之を Conjunctive Adverb 接續的副詞といふものあり。例へば

This is the house where we live.

此處に "where" なる字は live を qualify するを以て副詞也。全時に之は接續詞也。何者, 二個の文章を結合するを以て也。

7). 關係副詞としての "the."

"the" は又量を表はす關係副詞として用ゐらる。而して其後にはいつも指示副詞としての "the" を伴ふ

The more (wealth) men have, the more they desire.

(富を積みば積む程ますます之を増さんことを願ふ)

注意. 第一の "the" は關係副詞にして. 第二の "the" は指示副詞也。書き換ふれば

To what extent men have more wealth, to that extent they desire more.

注意. 此の "the.....the....." の如き "the" の一對を用ふる場合は. 比較級に於ける形容詞又は他の副詞と結合するに非れば. 用ゐらるゝことなし. 又關係副詞の "the" は指示副詞の "the" を伴ふことなくば 用ゐらるゝことなし. されど. 指示副詞の "the" は單獨に用ゐらるゝことを得。

8). 副詞の比較法 Degrees of Comparison.

或副詞は形容詞の如く、比較法を作り得。其方法次の如し。

a). もし adverb が一と綴りの言葉なるときは、其比較級は語尾に er を附し、最大級は est を附すこと形容詞と全し。

Positive	comparative.	superlative.
Soon.	sooner.	soonest.
Long	longer.	longest.
Loud	louder.	loudest.
Near	nearer.	nearest.

b). 或 adverbs は比較法の作り方不規則のものあり。

well,	better,	best
much	more,	most,
far	farther,	farthest.

c). "ly" に於て終る adverbs は比較法の時は前に more を附し、最大級のときは most を附す。

wisely,	more wisely,	most wisely.
Beautifully,	more beautifully.	most beautifully.

注意. adverb, "early" は比較級に於て、特に earlier となる。

9). Adverbs の形

或 adverbs は相對の形容詞と全しき形を有す。例へば。

Adverb: — Adjective: —

He was much pleased. There is much sickness here.

He has slept enough. He has eaten enough bread.

又或者は adjective に "ly" を附加して作らる (ly は like の變体なり)。例へば。

Adjective: —	Adverb: —
wise	wisely.
poor	poorly.
short	shortly.

又分詞 participle より作らる、adverbs あり。例へば。

devoted—devotedly. knowing—knowingly. 等

又 pronominal adverbs として "the" "he" "who" 等より作られたる adverbs あり。

Adverbs.

		休止	運動(まで)	運動(より)	時	態様
指示	the	there	thither	thence	then	thus
	he	here	Hither	hence	—	—
關係	—	where	whither	whence	when	how
疑問	—	where?	whither?	whence?	where?	how?

以上の言葉は前置詞又は其他の副詞と相合して副詞を作る。

例へば。

there より : therein, thereto, thereat, therefore, therefrom, therewith, thereout. 等

Here より : herein, hereto, heretofore, hereby, herewith. 等

where より : wherein, wherto, wherefore, whereon, 等.

Hither より : hitherto 等.

thence より : thenceforth, thenceforward 等.

hence より : henceforth, henceforward 等.

又 Genitival adverbs とて所有名詞 possessive nouns より作られたる Adverbs あり. 例へば.

Needs. (=of need, neccessarily). once (=of one. 又は of one time). sometimes (=of some time)

Always (=of all way). 等.

10). 副詞的句. Adverial phrase.

英語には副詞の作用をなす数多の句 phrase あり. 之れを Adverial phrase といふ. 例へば.

a). 名詞を伴ふたる前置詞.

At random (aimlessly); of course (neccessarily)

At length (gnally). In fact (actually).

to boot (moreover); of a truth (truly).

b). 名詞と混じたる前置詞.

Inbeed. (actually). betimes (punctually).

Besides (In addition). between (in the moddle of

two). to-day (on this day). abed (in bed) 等.

c). 形容詞を伴ふたる前置詞.

In general, in particular, in short, at large, in vaing

on high, of old, after all, at first, at last, at least, at all, at most, at best, in future, at present, 等.

以上の如きは形容詞の後に名詞の略せられたるものなり

d). 形容詞と混じたる前置詞.

Below, beyond, behind, abroad, anew, along, 等.

是も全しく形容詞の後に或名詞の略せられたるものなり

e). 形容詞に因て qualify されたる名詞.

meantime, meannhile, midway, 等.

f). 前置詞と和合したる副詞.

Eorthwith, within, without, atonce, before, 等

g). 其他雑多の句.

By all means, by no me ans, by the by, by the way, once on a time, inside ont, upside down, to be sure, head foremost.

11). Adverbs は時として一對として用ゐらるゝことあり.

即ち 接続詞 and にて結合せらるゝ時に此事あり.

He is walking here and there. (こゝ. そこに)

He comes here now and then (折々)

You will see him by and by. (やがて. 遠からずして).

12). 働詞と副詞とが 殆んど 習慣的に相伴ふて用ゐらるゝ場合.

例へば "to speak out" "to rise up" の如きは 細かくい

へは out や up の如きは adverbs にして speak や rise は verbs なり。されどもかゝる結合は殆んど離すべからざるばかりに習慣となり。通常かゝる場合に於ける out や up の数の字は speak out や rise up なる。働詞の一部と見做さるゝ程に至れり。されど厳密に解剖すれば out や up が adverbs たるは上述の如し。例。

turn out, cast out, set on, shoot off, 等。

13). 副詞の二用法。

形容詞の場合に於けるが如く、副詞にも亦二様の用法あり。即ち

a) attributive, b). predicative.

Attributive use : 副詞が普通の仕方 (副詞が qualify する言葉に出来る丈け近く置かれたるとき) にて或言葉を qualify するときには。ろは attributive の用ゐ方なり。例。

He is entirely wrong. He shouted loudly.

Predicative use : 副詞が或文章の Predicate の一部をなすとき換言すれば。働詞に伴ふて其働詞の補充詞となるときは。

Predicative の用ゐ方なり。

My son is well to-dhy. He will be better soon.

The bear was caught alive. He was heard out.



第 六 章

前 置 詞 (Preposition).

1. 定 義. 前置詞とは 名詞又は名詞と同作用の詞によりて表はされたる人又は物が他の或ものに對して如何なる關係に於てあるかを表はす爲めに。名詞又は名詞と同作用の詞の前に置かれたる詞也。而して名詞又は名詞の同作用をなすものを目的といふ。I. place my hand on the table.

(on は即ち前置詞也。もしていに on の一字脱したらんには。

此文章は全質意義を成さざるに至るべし。即ち前置詞が hand と table との間に挿入せられざる以上は。机と手との關係は知るべからざる也。The hand might be place on the table, といふも。………under the table, といふも。又は………above the table. といふも。何れの場合にも。前置詞なくしては。手と机との關係を表はし能はざるこゝ明かなり。上記の文中下線を施したるは皆前置詞也。

2. 目的としての副詞 (Adverbs as objects).

時又は場所を表はす或副詞は。時又は場所の關係を示す所の前置詞の目的として用ゐらる。

He has worked hard from then to now.

(彼はろのときより今まで。勵精して働きたり。from 及び to は前置詞也。then 及び now は adverbs なり。then も now も

時を表はす。而して前置詞 to 及 from の objects として用ゐらる。) 以下皆全様なり。

He walks about from here to there.

Until now it has not ceased raining.

You must go at once.

This will last for ever.

I have heard of worse things being done before now.

下線を施したる前置詞もしくは adverbs なり。

3. 目的としての Phrases.

或 adverbial phrases (詳言すれば 前置詞もしくは接續詞にて終らざる句) は、普通の副詞の如く、亦前置詞の目的として用ゐらる。

He did not return till about-ten-days-afterwards.

即ち about-ten-days-afterwards なる adverbial phrase が till なる前置詞の object として用ゐられたる也

以下皆全様なり。下線を施したるは 前置詞又は adverbial phrases と知るべし。

The day-spring from on-high hath visited us.

He has come from beyond-the-seas.

These books are sold at over-one-rupee each.

I bought this for under-half-its-value.

等是也。

4. Object としての Noun-clause.

Noun-clause (名詞的句) は名詞又は代名詞と全様の仕方によりて前置詞の目的として用ゐらる。

This depends upon whether he will consent or not.

He told every one of what he had heard.

5. Object の脱略。これには二つの場合あり。

Relative Pronoun. The man (whom 又は what) we were looking for.

Demonstrative Pronoun. A chair to sit on (it).

6. 前置詞の形。

前置詞は六つの異なりたる形を有す。1). Simple, 2). Double, 3). Compound, 4). Participial, 5). Phrase Preposition, 6).

Disguised Prepositions.

Simple Preposition.

Simple Prepositions の主なるもの次の如し。

At, by, with, on, in, to, for, of 又は off, up, through, till, over, under, after 等也。

Double preposition. は Simple は Simple Preposition が意味を表はすに十分ならざる時に用ふ。

The dog ran into the house.

の into の如き是也。其他：—

The lump fell onto the table.

One man was chozen from among the reast.

The seed had spronted from under the ground.

The cast stands over against the bank.

A live coal was taken from off the fire place.

等の如し。

Compound Preposition. これは前置詞 "be" (=by) 又は "a", = (on) と名詞、形容詞、又は副詞との複合によりて、作らる。

Across (=on cross), amidst (=on the middle),

about (=on + by + out), before (=by + fore),

beneath (=by + neath), 等。

Participial Prepositions. これは之とは言ひ表はされたるか又は脱略せられたる名詞と共に絶對的に用ゐられたる。Present participle か 又は Past Participle なりし也。

a). 名詞の表はされたる場合。

All except one = all, one being excepted.

The hour past sunset = the hour, sunset being passed

During the summer = the summer during, or enduring or still lasting.

b). 名詞の脱略せられたる場合。

Considering yors age you have done very well.

Inform me concerning, touching, regarding this mather.

Phrase Prepositions.

二個又は二個以上の言葉が共に用ゐられ 其最後の言葉が Simple preposition にて終るときは、之を Phrase Preposition

といふ。例へば

By means of, because of, in front of, in opposition to

in spite of, on account of, with reference to, with re

gard to, for the sake of, in lieu of, in the place of

in prospect of, with a view to, in the event of.

Disguised Prepositions.

by が be に變じ on が a に變ずるが如く (或名詞又は形容詞に附けられて)。同様 = 又 of は o に變せらる

four o'clock, Tack o'lantern.

That と But とは Preposition としても用ゐられ、又 conjunction としても用ゐらる。

● 第 八 章

接 續 詞 (Conjunction)

1. 接續詞とは單に結合の詞なり。他に何等の目的あることなし。只言葉 もしくは文章を結び附くるもの也。

A boy and a dog.

The rain fell before we reached home.

接續詞は之を二大部に分つ。

a). Co-ordinateive Conjunction. これは同列同位の文章を結合するもの。

b). Subordinative Conjunction. これは附属文を主要文に結合するもの。

2. Co=ordinative: 文章が同列同位にありといふは、其文章共が、互に独立の状態にある或る事實を確認するをいふ也。而て此の同列同位の文章は四つの異なりたる仕方によりて結合せらる。従て Co-ordinative conjunctions にも四つの種類あり。

a) Cumulative. (附加).

これは単に一の記載即ち事實が他の記載に附加せらるゝもの。

The one received the prize, and the other was promoted.

He was both degraded and expelled.

He is guilty, and you also.

He as well as you ts guilt.

其他. Too. No less than. Not only... but also. 等。

b). Alternative (撰擇)

これは一記載と他の記載との間に撰擇が與へらるゝもの。

Either this man sirmed or his parents.

He was neither an idler nor a gambler.

其他. Otherwise, else, or. 等。

c). Adversative (對照)

これは一つの記載が他の記載に対して對照せらるゝもの。

He is sad, but hopeful.

He is very rich, yet he is not contented.

其他. Nevertheless, However, whereas, while 等。

d). Illative. (推度)

これは、Conjunction によりて 一の事實が他の事實よりして推度せらるゝもの。

He was found guilty, and therefore he was hanged.

He will die some day; for all men are mortal.

3. Subordinate Conjunctions.

一つの文章が意味に於て他の文章に附属し、それ自身にては一つの完全なる意味を傳へざるときは之を Subordinative sentence といふ。

I will read that book, if you advise me.

“if you advise me” は subordinative sentence なり。而して主要文と此の subordinative sentence とを結合する if は Subordinative Conjunction と稱せらる。

He told us that ruin had fallen.

He will succeed, because he has worked hard.

I will do this, since you desire it.

They threatened to beat him, unless he confessed.

He is an honest man, though (又 though) he is poor.

下線を施したるは皆 subordinative conjunction なり。

第 九 章

感 投 詞 (Interjection).

感投詞は、其名の示す如く、感動せられたる折發する言葉を呼びかけのとき用ふる言葉にして、之を品詞の中に入るゝは不適當の嫌なきに非ず何となれば、他の品詞に對して何等の文法上の聯關を有せざれば也、されど普通に從て之を第九の品詞として論ず。

喜悅 Hurrah! huzza!

悲 Oh! ah! alas! alack!

樂 Ha! ha!

賞讚 Bravo!

疲労 Heigh-ho!

注意 Lo! hark! hush! hist!

誹離 Fie! fie!

輕侮又は嘲笑 stuff! bosk! tut-tut pooh! pish!

Pahaw! tush!

呼かけ Ho! holla!

疑 Hnm! hem! humph!

又此外に強き感動を表はす爲めに、感投詞の如く用ゐらるゝ phrases あり。

Al! me! Ay me! Woe is me!

For Shame (=alas, on account of shame).

Alack a day (=ah, lack or loss on a day!).

Hail, all hail (=be hale or healthy).

Welcome! well done!

等の如し。

又他の分詞の、或る言ひ表はし方によりて、感投詞的意味を表はすことあり、例へば

a). Noun-Infinitive—To think that he should have died!

b). Subjunctive —Would that I had gained that prize!

(願望)

c). Imperative —Hear! hear! (賞讚)

d). Noun —Dreadful sight! Foolish fellow! Fool! Dunce!

e). Adjective —Strange! Schacking!

f). Adverb —How very kind of you! How wonderful!

g). Pronoun. —What a sad thing it is!

h). Conjunction. —If I could only see him once more!

吾人は、以上にて各分詞に關して文法上の解説を終りたり。

かくの如きは、極めて難澁なる叙述に過ぎざれども、初學便覽の要には足りぬべし、之より文章論に移り、文章上に於ける

各分詞の働き具合を述ぶるが 順序なれど、本講義も僅かに二三回を除すに過ぎざれば、嘗て約束せし働詞に關して少しく補足を加ふべし。文章論のことは 其作文の講義中に所々零碎乍らも記述したれば 依て以て大体の觀念を得べし。

働詞の補足

以下述ぶる働詞の講義は、已に述べたるものと、或點に於て相違する所なきを保せず。然れども何れが正し何れが誤れりといふこと能はず。唯觀察の相違、見解の相違より來れる相違にして、絶對的に正誤の評を下すべきものにはあらず。されど 以下に述ぶるは先きに述べしよりも、進歩したる文法上の所説にして、一層よろしといふことを得る也。

吾人は働詞の Mood, Tense, Number, 及 Person に就て論ずべし。此等は皆働詞の精粹にして、殊に Mood と Tense とは最も大切なる部分を占むるものなり。

さて此 Mood とは働詞によりて表はさるゝ記載 (或は言語) の Mode 又は manner を示すものにして大別して四個の Moods とす。其中三つは Finite 一つは Infinitive なり。

a). 三つの Finite mood:—

- 1. Indicative. 2. Imperative. 3. Subjunctive.

b). Infinitive mood,

吾人は先きに Potential mood の一項を挟みたりしが、こゝに

は之を除きたり。或は吾人は之を 助働詞の中に挿入するを以て便利とすればなり。

Number 及び Person. 定働詞の數と性とは其 subject の性質に従ふ。

Number { subject がもし單數ならば 働詞は單數也。例へば
Rain is falling.

subject が複數なれば働詞は亦複數也。例へば
Rain-drops are falling.

Person. { subject が第一人稱なれば 働詞も亦第一人稱也。
例へば I love; we come.

subject が第二人稱なれば 働詞も亦第二人稱也。
例へば Thou lovest. You come.

subject が第三人稱なるときは 働詞も亦第三人稱也。
例へば He loves. The teacher has come.

故に次の規則あり。

定働詞は 其 Subject と數に於て并に人稱に於て相全じ

次の諸例に於て各働詞の Number 及 Person を指示せよ

- The cow is quiet and useful animal. . .
- Oxen draw the plough. I see four men coming.
- They see the sun rising. We see the hills in the distance.
- Thou art the wisest man in the room. The horse carries its rider.

注意. 定動詞に於ては、第三人稱の單數の動詞は必ず其 語尾にsを採る。He loves. The horse carries 等の如し。
次に Tense は動作の time を示すものにして、次の如く分ち考ふることを得べし。

現在 (Present). 過去 (Past) 未來 (Future).

即ち動詞は以上三つの主なる Tense を有す。

以上の各 Tense 毎に下の四つの異なりたる形式あり。

I. Indefinite: これは現在、過去、未來を各々其最單の形にて表はすもの。例へば、I love. I loved. I will love 等の如し。

II. Continuous: これは現在、過去、未來に於て或出來事の尙繼續しつゝありて未だ終らざることを表はすもの。例へば I am loving. I was loving. I shall be loving. 此 Tense は時として Imperfect と呼ばる。何者不完全即ち未だ完了せざることを示すを以て也。

III. Perfect. これは現在、過去、未來に於て 或出來事が完全なる状態に於てあることを表はすもの。例へば I have loved. I had loved. I shall have loved.

IV. Perfect Continuous: これは II と III どの意味を併結するもの。例へば、I have been loving. I had been loving. I shall have been loving の如し。

Mood, Person, Number 及 Tense は其概略を述べたり。

今 Tense と mood との關係を下の表に掲ぐ。

Indicative mood.

1. Active voice.

Form.	Present.	Past.	Future.
Indefinite.	I love.	I loved.	I shall love.
Continuous.	I am loving.	I was loving.	I shall be loving.
Perfect.	I have loved.	I had loved.	I shall have loved.
Perf. Continuous	I have been loving.	I have been loving.	I shall have been loving.

2. Passive Voice.

Form.	Present.	Past.	Future.
Indefinite.	I am loved.	I was loved.	I shall be loved.
Continuous.	I am being loved.	I was being loved.	(欠)
Perfect.	I have been loved.	I had been loved.	I shall have been loved.
Perf. Cont.	(欠)	(欠)	(欠)

Indefinite の現在、過去、未來と數と人稱との關係とは下の如し

1. Active Voice.

Present Tense.

	Singular	Plural.
1st Person.	I love	We love

2nd " Thou lovest. Ye or you love.

3rd " He loves (又ハ loveth) They love.

Past Tense.

Singular Plural.

1st Person. I loved. We loved.

2nd " Thou lovest. Ye or you loved.

3rd " He loved. They loved.

Future Tense.

Singular Plural.

1st Person. I shall love. We shall love.

2nd Person. Thou wilt love. Ye or you will love.

3rd " He will love. They will love.

注意 第二人称の單數. Thou lovest, Thou lovedst, Thou wilt love. 等は今日は詩歌の外餘り用ゐられず. 吾人は今日單數の第二人称を言ひ表はすには 第二人称の複數を用ふるを常習とするに至れり. (You love, you loved, you will love) これ等は實は複數なれども. 今は單複兩意に用らるゝに至れるものなり. 例へば Have you come, my son? なる言に於て Have you は單に一人の son に向て話されたるものにして單數の義として用ゐられたり.

he loveth なる形も亦詩歌より外に用ゐらるゝこと少なし.

II Passive Voice.

Present Tense.

Singular Plural.

1st Person. I am loved. We are loved.

2nd " Thou art loved. Ye or you are loved.

3rd " He is loved. They are loved.

Past Tense.

Singular Plural.

1st Person. I was loved. We were loved.

2nd " Thou wast loved. Ye or you were loved.

3rd " He was loved. They were loved.

Future Tense.

Singular Plural.

1st Person. I shall be loved. We shall be loved.

2nd " Thou wilt be loved. Ye or you will be loved.

3rd " He will be loved. They will be loved.

Do 及 Did.—Active Voice に於ける Present Indefinite は

do により. Past は did によりて形成せらる.

Present Tense.

Singular Plural.

1st Person. I do love. We do love.

2nd " Thou dost love. Ye or you do love.

3rd " He doth love. They do love.

Past Tense.

1st Person.	I did love	We did love
2nd „	Thou didst love	Ye or you did love.
3rd „	He did love	They did love.

“do”の挿入せられたる此の形は種々の目的に向て用ゐらる。

- a). 強意を目的として：例へば I love といふよりも寧ろ I do love といふ方が如し。
- b). “Not”なる語を挿入する場合に耳ざわりをよくする爲め I love not といふより I do not love といひし方がよし。
- c). 疑問のとき。例へば loves he? といはずして Does he love といふが如し。

次の文章を改むべし。

Loved he not? Came he? He not saw this book.
 He reads not his book with care. They not slept long last night. They broke not the slate, but he broke it.
 You not read your book well. This letter came for me to-day or yesterday? It came not to-day, but yesterday.
 You not yet finished reading the letter?

Has come, is come. 此の二つの形は意義に於て異なり。且つ全とき Tense に属することなし。

- a). “I have come.”の場合には the time of action (働の時)

が主として言ひ表はさる。而してこれは Present Perfect tense なる故現在を表はす。即ち如何なる時に來ることが完了せられしかといふに對して現在完了せりといふ也。

b). “I am come”の場合には。the state of agent 行爲者の有様が主として言ひ表はされ 働の時は其主なるものに非ず。行爲者は如何なる有様に於てあるやといふに對して。來りたることの有様にあるといふ也。

“The flower is faded” 花は凋みたり。といふは 花は如何なる有様に於てあるかといふに對して。凋みたりといふ也。凋落の時 the time of fading には何等主要なる意味を與へざる也。

“The flower has faded” 何時頃花は凋みたりやといふに對して 現在凋みたりといふ也。これは其凋落の時に重きを置くもの也。

Shall and Will. 此等は助働詞に屬するものにして能働。被働共に未來を作る爲めに必要の字也。

英語に於ける一つの困難として如何なる場合に shall を用ゐ。如何なる場合に will を用ふるかは常に問題に上ることなりとす。此問題を解せんが爲めに。Future tense が用ゐらるゝ三つの場合あることを知り置くこと肝要なり：—

- a). 單に未來を示すのみなる場合。
 b). 未來を示し且つ命令を傳ふる場合。

e). 未來を示し且つ或企圖を示す場合.

a). 單に未來を示す場合 Merely Future time.

此場合は First person に向ては shall, Second 及 Third Persons には will を用ふ.

	Singular	Plural
1st.	I shall go	We shall go
2nd.	Thou wilt go	You will go
3rd.	He will go	They will go.

b). 未來を含めて命令. 約束. 脅迫を表はす場合.

獨り未來を表はすのみならず. それに加へて命令. 約束. 脅迫等と言ひ表はす場合には Second 及 Third Persons には will の代りに shall を用ふ.

You shall be hanged (by some one's command).

You shall receive your prize to-morrow (promise).

If you do this, you shall be hanged (Threat)

c). 企圖を表はす場合.

話す者が自己の企圖を表はさんとする時には. First Person に於て will を用ふ.

I will call on you to-day, and I shall then Say good bye.

上例にては初の Verb は訪問の企を示す. 第二の Verb は單に未來を示す.

Subjunctive mood. subjunctive とは或る他の文章に從屬的に用ゐられたるものなり. 其獨立つことは殆んどなし. The Present, Past, 及び Future tenses は Active voice のときに次の如く變化す.

Present Tense.

	Singular	Plural
1st person.	If I love.	If we love
2nd "	If thou love	If you love
3rd "	If he love	If they love

Past Tense.

1st Person	If I loved	If we loved
2nd "	If thou lovedst	If you loved
3rd "	If he loved	If they loved.

Future Tense.

1st Person	If I should love	If we should love
2nd "	If thou shouldst love	If ye or you should love
3rd "	If he should love	If they should love.

Present Tense に於ける thou love, he love は近來次第に用ゐらるゝこと少なきに至り. 其代りに Indicative mood の形が一般に用ゐらるゝことなれり. If thou love の代りに If thou lovest といひ. If he love の代りに If he loves といふ. "to be" なる Verb は他の Verb よりも一層完全に其

subjunctive form を維持保存せり.

Present Tense.

	Singular	Plural
1st Person.	If I be	If we be
2nd Person.	If thou be	If ye or you be
3rd Person	If he be	If they be.

Past Tense.

1st Person	If I were	If we were
2nd Person	If thou wert	If ye or you were
3rd Person	If he were	If they were.

Future Tense.

1st Person	If I should be	If we should be
2nd Person	If thou shouldst be	If ye or you should be
3rd Person.	If he should be	If they should be.

Continuous と Perfect Tenses の形は Active Voice に於ては
下の如し

	Continuons	Pebeet
Present.	If I be loving	If I have loved
Past	If I were loving	If I had loved
Futur	If I should be loving.	If I should have loved.

Subjunctive Mood の用法.

subjunctive mood は目的 (purpose) wish (願望) condition

(條件) doubt (疑) 等を表はす.

1. 目的. 此場合に於ては subjunctive mood に於ける
助詞は that 又は lest (=that not) に因て先立たる. 助詞
may might が that の後に. should が lest の後に用ゐらる.

Indicative

Present	{ I give you a prize,	that you may work well again.
or	{ I shall keep your book,	{ lest you should lose it,
Futur		{ that you may not lose it.
Past.	{ I gave you a prize,	that you might work well again.
	{ I kept your book	{ lest you should lose it.
		{ that you might not lose it.

2. 願望又一命令.

I wish that he were as clever as his sister.
God save the queen. Long live the king.
For be it from me to say anything false.
My sentence is that the prisoner be hanged.

3. 條件及び其結果.

Verb が條件を表はすときには 一般に if に因て先立たる.
結果を表はす所の Verb 助詞 would に因て表はする.
First sentence: Condition. Second Sentence: Consequence.

Present	{ If he should meet me,	he would know me at once.
or	{ If I were in his place,	I would pay the rupee.
Future		

Past. { If he *had met* me, he *would have known* me.
 { If I *had been* in his place, I *would have paid* the rupee.

時としては *if* を脱略することあり。此場合には *should* 又は *had* は *were* はろの *subject* の前に置かるべし。

Present } Should he meet me, he would *knew* me at once.
 or
 Future } Were I in his place I would pay the rupee.

Past { Had he met me, he would have known me.
 { Had I been in his place, I would have paid the rupee.

4. 疑又は假定。

或接続詞に因て先立たれたる *Subjunctive mood* に於ける 働詞は疑又は想定を含む。

Murder, *though* it have no tongue, will speak.

If he but *speak*, I will shoot him.

Whether he allow me or not, I will go to him.

Provided he confess his fault, I will pardon him.

Unless he consent, we can do nothing.

Imperative Mood.

Imperative mood は單に *Present Tense* に用ゐられ。

Person Second person に限らる。

Singular. Plural.

Speak, or speak thou. Speak, or speak you, or speak ye.

此 *Mood* の First 及び Third Persons を表はすには吾人は

let なる字を用ふ。

Singular. Plural.

1st Person. Let me speak. Let us speak.

2nd Person. Let him speak. Let them speak.

Imperative Mood の主要なる用法は. (1) 命令. (2) 教訓. (3) 願を表はすにあり。

1). 命令

Speak,—or I fire. Awake, arise, or be far ever fallen.

2). 教訓.

Go to the ant thou sluggard; consider her ways and be wise.

3). 願又は祈

Give us this day our daily bread, and forgive us our trespasses, as we forgive them that trespass against us.

若し Verb が否定 *negative* なるときは *Imperative* は助動詞 *do* に因て形作らる。

Older form. Present form.

Fear not Do not fear.

Taste not that food. Do not taste that food,

時としては. Verb が肯定なる場合にも *Imperative* が

do にて作らるゝことあり。うは願望に一層の強意を興ふる爲めなり。されどこれは英國俗語なり。

Do leave off making that noise.

Do help me to lift this box.

吾人は三つの Finite mood を説き了れり。Infinite mood はこゝに説くの開なきことを悲む。されど他日論ずるの期あるを信ず。

以上にて文法の大体は終れり。讀者諸子もし依て以て益する所あらば幸甚。只要は讀書にも作文にも。文法なるものは必ずしもキチキチ何處何時にても適合するものに非ず。うは文法ありて文章あるに非ず。文章ありて文法あるを以て也。文法の大体に通じ 讀書作文に従事するは勿論極めて大切のことなれども餘りに文法のみ拘泥せずして讀書し作文し得るの境地に到らんこと予の諸子に對する希望也。

(完)

○
本講義ハ本會發行ノ講義録「普通學講義」ノ爲メニ石川巖先生ガ特ニ講述セラレタルモノナリ。先生ハ多年斯學ヲ研究セラレ其學殖豐饒ニシテ最モ有望ノ新進大家トシテ名聲隆々ナリ、而シテ本講義ノ嶄新有益ナルハ已ニ世ニ定評アリテ更ニ之ヲ揚稱スル贅辨ノ要ヲ見ズ實ニ斯學研究ノ最良ノ明燈ナルヲ信ズ。

依テ茲ニ綴製シテ冊子トナシ讀者ノ學習ノ便ニ供スルコトヲナセリ而シテ綴冊スルニ當リ先生ノ校訂ヲ經ベキ筈ナルモ印刷製本ノ都合上之ヲ爲ス能ハザリシヲ頗ル遺憾トス、然レモ他日改版ノ際ヲ期シ校訂増補ヲ請フベシ。

本講義ハ明治三十四年十一月ヨリ起稿シ翌々三十七年三月ヲ以テ脱稿セラレシモノナリ、該印刷ノ都度迅速ヲ要セシガ爲メニ校正ニハ注意ニ注意ヲ加ヘタルモ猶且多少ノ誤謬ナキヲ保シガタシ其責ハ本會編輯局ノ負擔スル所ナリトス、聊カ附記シテ先生ノ爲メニ之ヲ辨明スルコト爾リ。

明治三十七年五月上澁

大日本普通學講習會誌ス。

明治三十七年五月十五日印刷
明治三十七年五月二十日發行

▲英文法講義▲全一冊
▲賣價金三十錢

著作權所有
不許複製

編輯者 大日本普通學講習會

右代表者 村瀬兼太郎

東京市神田區三崎町三丁目一番地

發行者 村瀬兼太郎

東京市本郷區湯島三丁目貳番地

印刷者 松本秋齋

東京市神田區三崎町三丁目一番地

發行所 大日本普通學講習會出版部

